

人生100年時代における社会参加施策に係る 検討のとりまとめ（案） 参考資料

内容	ページ
区市町村向けアンケート調査結果	1
シニア・プレシニア向けアンケート調査結果	17
参考事例	46

2023年1月19日

東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課

シニア・プレシニアと社会活動のマッチング等に関するアンケート調査の概要（2022年7月実施）

- 都内区市町村における高齢者の社会参加マッチング施策に関する現状や課題等について把握することを目的として、都内の全区市町村を対象に実施したアンケート調査を実施。調査の概要は以下のとおり。

シニア・プレシニアと社会活動のマッチング等に関するアンケート調査

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> 都内区市町村における高齢者の社会参加マッチング施策に関する現状や課題等について把握すること
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"> 都内の62区市町村（区23、市26、町5、村8）
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> Excel形式の調査票を東京都福祉保健局より各区市町村の高齢者福祉主幹課長宛てに電子メールにて発送・回収
割り付け条件	<ul style="list-style-type: none"> 悉皆調査
回収サンプル数/回収率	<ul style="list-style-type: none"> 55件（88.7%）
調査日程	<ul style="list-style-type: none"> 2022年7月12日～26日〆切 ※〆切後も回収を継続し、28日回収分までを対象に集計
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況について 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について <ul style="list-style-type: none"> 総合的な相談支援窓口の有無 総合的な相談支援窓口の担い手 総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制 シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて <ul style="list-style-type: none"> 社会参加活動情報の把握について 連携している関係機関について 社会参加活動の情報収集の方法 Webサイトを活用したマッチング事業について <ul style="list-style-type: none"> 社会参加活動を掲載したWebサイトの有無 Webサイトの機能 Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法 シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について <ul style="list-style-type: none"> マッチング事業を行うにあたって必要な支援 都のwebサイト（オンラインプラットフォーム）構築にあたってのご要望等

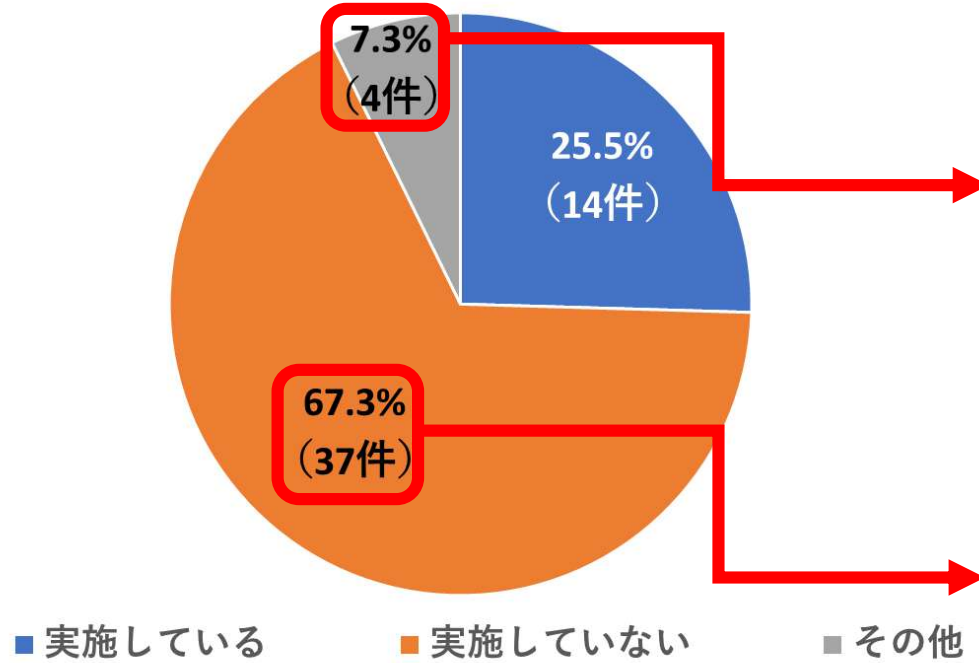
※当アンケートにおけるプレシニアとは概ね50歳～65歳の方を想定

1. シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況について

- シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業を実施している割合は25.5%（14件）であった。

1. シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況について
貴区市町村における、シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況を教えてください。

シニア・プレシニアと社会参加活動の
マッチング事業の取組状況（n=55）



【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- 「生活支援体制整備事業」において、生活支援コーディネーターによるニーズと取組のマッチングを行っている。また、区社会福祉協議会ボランティアセンターではボランティア活動についてコーディネートを行っている。*
- 個別相談は実施していないが、事業の中で、様々な社会参加活動を提示等を行っている。
- 日常生活支援総合事業「住民主体の訪問型サービスB」を令和4年度開始した。
- 令和2年度に生活支援コーディネーター、ボランティア・市民活動センター、が中心となり、退職後の社会参加を希望する高齢者と活動団体とのマッチングイベントを検討していたが、コロナウイルス感染拡大のため中止。令和3年度は、活動団体に活動状況や意向調査を実施。令和4年度は検討中。

※生活支援コーディネーターやボランティアセンターにおけるマッチングについては「マッチング事業を実施していない」と回答した67.3%（37件）のうち一部の区市町村でも実施

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(1) 総合的な相談支援窓口の有無

- ・ マッチング事業を実施している区市町村のうち、「総合的な相談支援窓口がある」割合は64.3%（9件）であった。
- ・ 「窓口の必要性は感じているが、現状設置できていない」区市町村も14.3%（2件）存在。

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

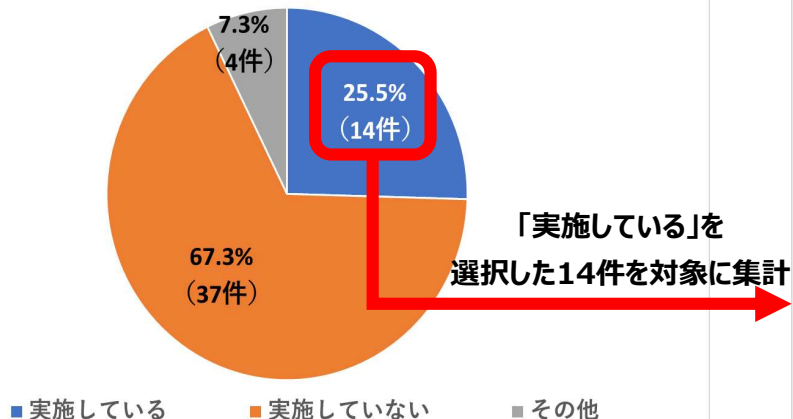
(1) 総合的な相談支援窓口の有無

貴区市町村における、総合的な相談支援窓口の設置状況を教えてください。

※ 1で「ア.シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を実施している」を選択した区市町村の回答

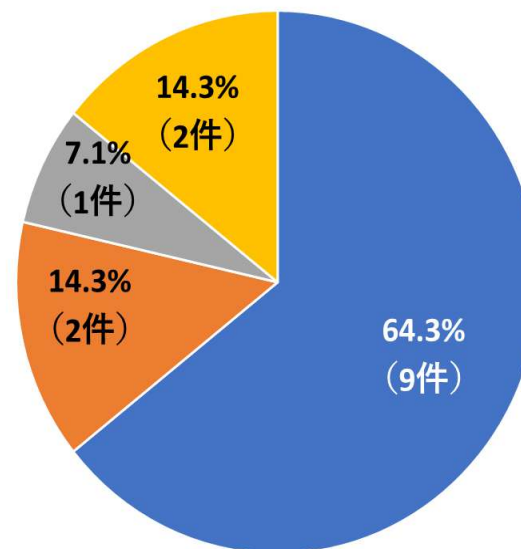
【マッチング事業の取組状況（再掲）】

シニア・プレシニアと社会参加活動の
マッチング事業の取組状況（n=55）



「実施している」を
選択した14件を対象に集計

総合的な相談支援窓口の有無（n=14）



【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- 地域包括支援センターや市で相談を受けている中で高齢者の社会参加の相談があった場合には都度対応している。
- 総合的な相談窓口は設置していないが、生活支援コーディネーターが配置される地域包括支援センターを拠点とし、生活支援コーディネーターが担当圏域内の社会参加に関する地域資源の情報収集に努め、必要に応じて、シニアの社会参加のコーディネートやマッチングを行っている。

- 社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じているが、現状設置できていない
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じていない
- その他

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(2) 総合的な相談支援窓口の担い手

- 総合的な相談支援窓口を設置している区市町村における「相談支援窓口の担い手」としては「全ての業務を包括的に法人に委託している」が77.8%（7件）で最も割合が大きく、次いで「全ての業務を直営で行っている」が22.2%（2件）であった。

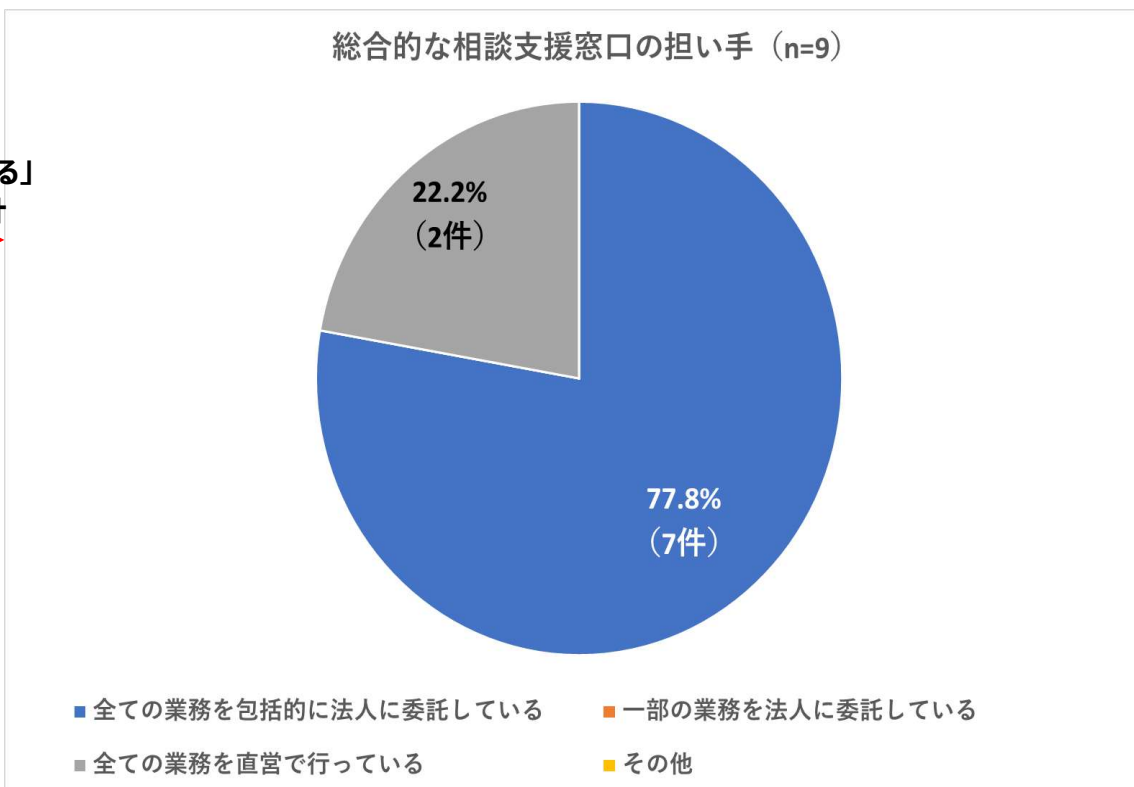
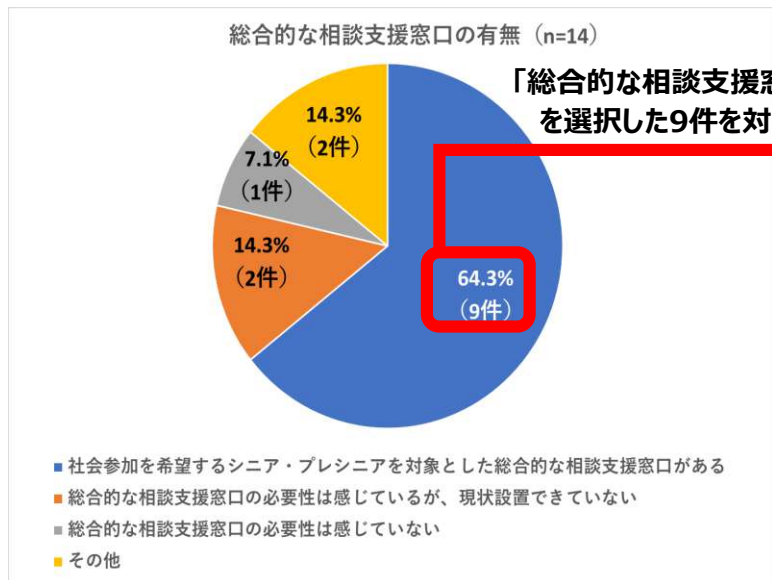
2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(2) 総合的な相談支援窓口の担い手

総合的な相談支援窓口の担い手について教えてください。

※（1）で「ア.社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある」を選択した区市町村の回答

【総合的な相談支援窓口の有無（再掲）】



2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(3) 総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制

- 総合的な相談支援窓口を設置している区市町村における「コーディネーターの体制」としては「専門のコーディネーターが常時1人以上対応できる体制」と「特定の曜日に配置する体制」が33.3%（3件）で最も割合が大きく、「区市町村職員等が業務の合間に対応している」が22.2%（2件）であった。

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

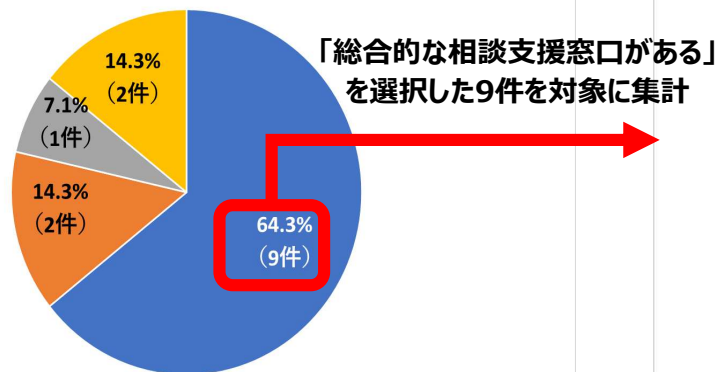
(3) 総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制

貴区市町村におけるコーディネーターの体制について教えてください。

※（1）で「ア.社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある」を選択した区市町村の回答

【総合的な相談支援窓口の有無（再掲）】

総合的な相談支援窓口の有無（n=14）

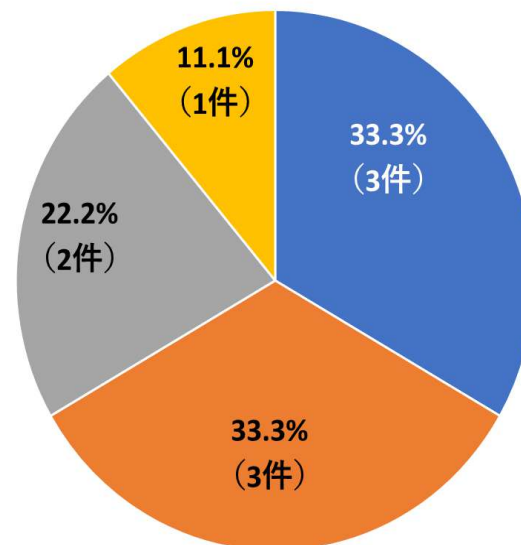


- 社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じているが、現状設置できていない
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じていない
- その他

「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）

- 専門のコーディネーター（3名）が必要な時に対応する体制をとっている。

総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制（n=9）



- 専門のコーディネーターが常時1人以上対応できる体制をとっている
- 特定の曜日に専門のコーディネーターを配置する体制をとっている
- 専門のコーディネーターはいないが、区市町村職員等が業務の合間に対応している
- その他

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(1) 社会参加活動情報の把握状況

- マッチング事業を実施している区市町村のうち、「団体や関係機関と連携し、活動情報を幅広く収集している」割合は64.3%（9件）であった。
- 「連携の必要性は感じているが、現状行えていない」区市町村も35.7%（5件）存在。

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

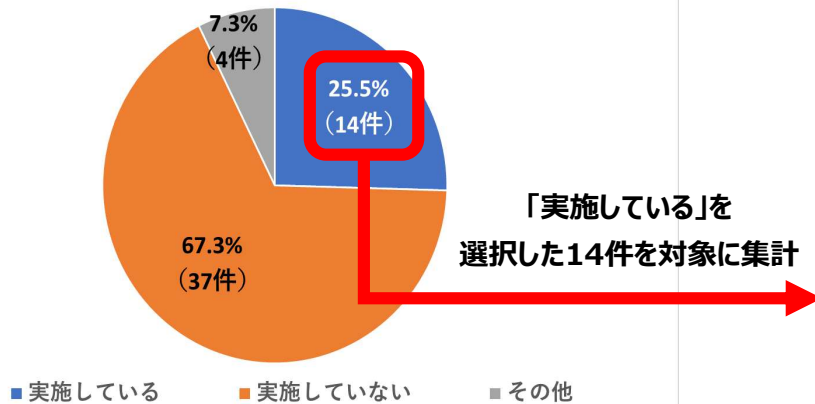
(1) 社会参加活動情報の把握について

社会参加活動情報の把握について、貴区市町村の実施状況を教えてください。

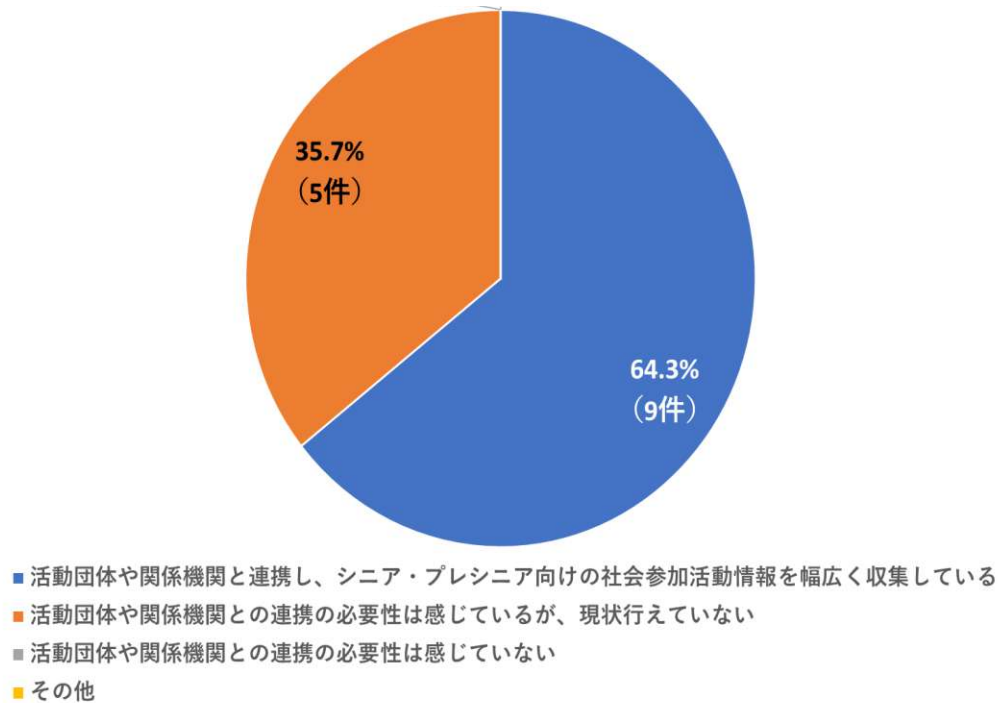
※ 1で「ア.シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を実施している」を選択した区市町村の回答

【マッチング事業の取組状況（再掲）】

シニア・プレシニアと社会参加活動の
マッチング事業の取組状況 (n=55)



社会参加活動情報の把握状況 (n=14)



3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(2) 連携している関係機関について

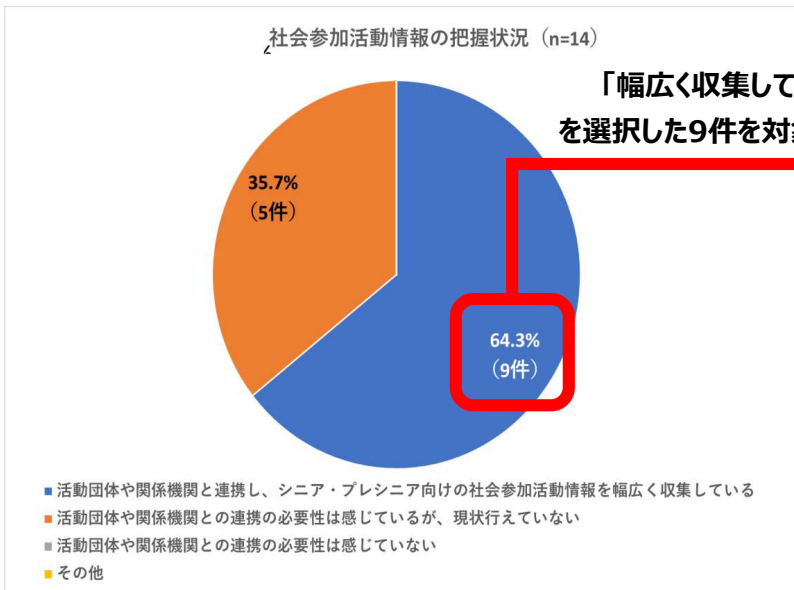
- 社会参加活動情報を「幅広く収集している」区市町村が連携している関係機関としては、「社会福祉協議会」が77.8%（7件）で最も割合が大きかった。

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて (2) 連携している関係機関について

連携している関係機関を選択してください。【複数回答可】

※（1）の設問で「ア.社会参加活動団体や関係機関と連携し、シニア・プレシニア向けの社会参加活動の情報を幅広く収集している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動情報の把握状況（再掲）】



【連携している関係機関（複数回答可）】

	n	%
社会福祉協議会（ボランティアセンター）	7	77.8%
その他のボランティア関連団体	6	66.7%
シルバー人材センター	5	55.6%
その他の就労関連団体	3	33.3%
町内会・自治会	3	33.3%
老人クラブ連合会	3	33.3%
老人福祉センター、老人憩いの家	3	33.3%
民間企業	4	44.4%
その他	0	0.0%
合計	9	

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(3) 社会参加活動の情報収集の方法

- 社会参加活動情報を「幅広く収集している」区市町村の情報収集方法としては、「一定の頻度で、関係機関や社会参加活動団体に新規の活動がないか確認を行う」が66.7%（6件）で最も割合が大きかった。

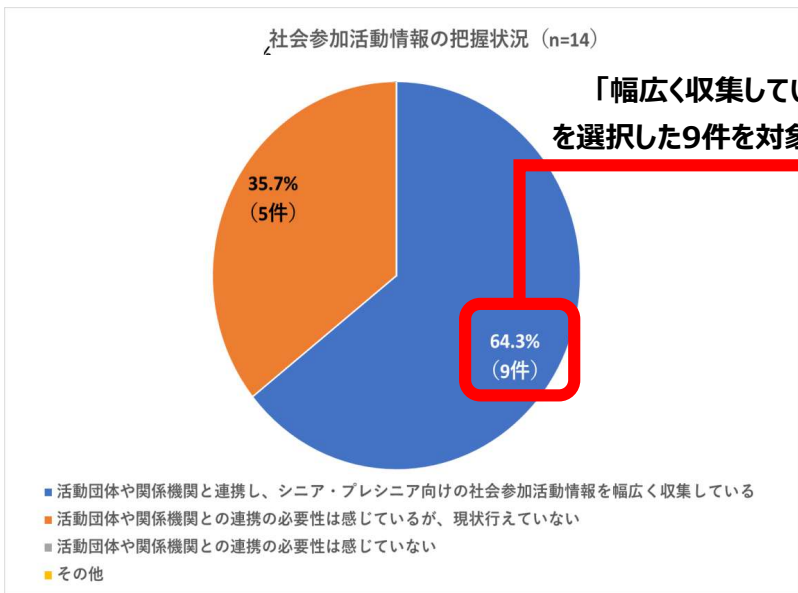
3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(2) 連携している関係機関について

貴区市町村で行っている社会参加活動の情報収集の方法について教えてください。【複数回答可】

※（1）の設問で「ア.社会参加活動団体や関係機関と連携し、シニア・プレシニア向けの社会参加活動の情報を幅広く収集している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動情報の把握状況（再掲）】



【社会参加活動の情報収集の方法（複数回答可）】

	n	%
新規の活動が発生した場合、関係機関や社会参加活動団体から情報が送られてくる。	2	22.2%
一定の頻度で、関係機関や社会参加活動団体に新規の活動がないか確認を行う。	6	66.7%
社会参加活動団体側のニーズを確認しながら、新規の活動を開拓している。	3	33.3%
その他	1	11.1%
合計	9	

【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- 高齢者地域活動情報サイトを開設し、区内の関係機関から寄せられる情報の収集・管理を、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを中心に行っている。

4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(1) 社会参加活動を掲載したWebサイトの有無

- マッチング事業を実施している区市町村のうち、「社会参加活動を掲載したWebサイトがある」割合は78.6%（11件）であった。「必要性は感じているが、現時点では活用できていない」区市町村も21.4%（3件）存在。

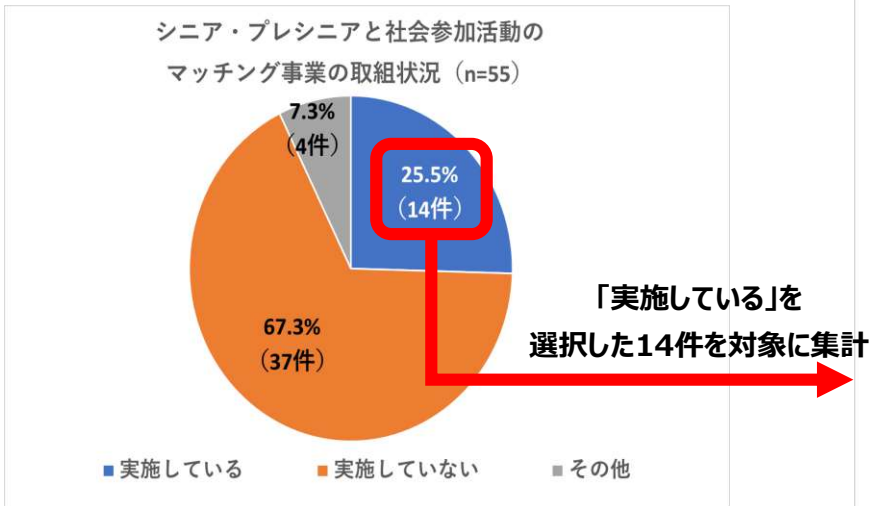
4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(1) 社会参加活動を掲載したWebサイトの有無について

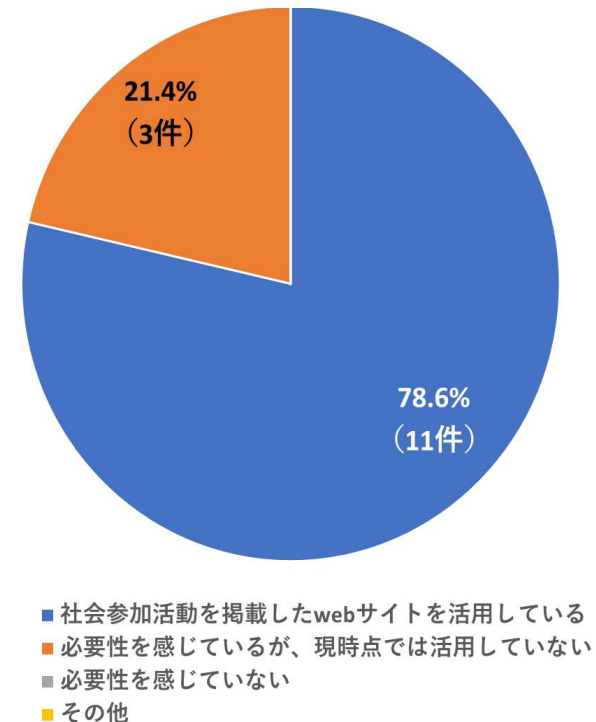
貴区市町村でマッチング事業を行うにあたって、シニア・プレシニア向けの社会参加活動を掲載したWebサイトを活用しているか教えてください。

※ 1で「ア.シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を実施している」を選択した区市町村の回答

【マッチング事業の取組状況（再掲）】



社会参加活動を掲載したWebサイトの有無 (n=14)



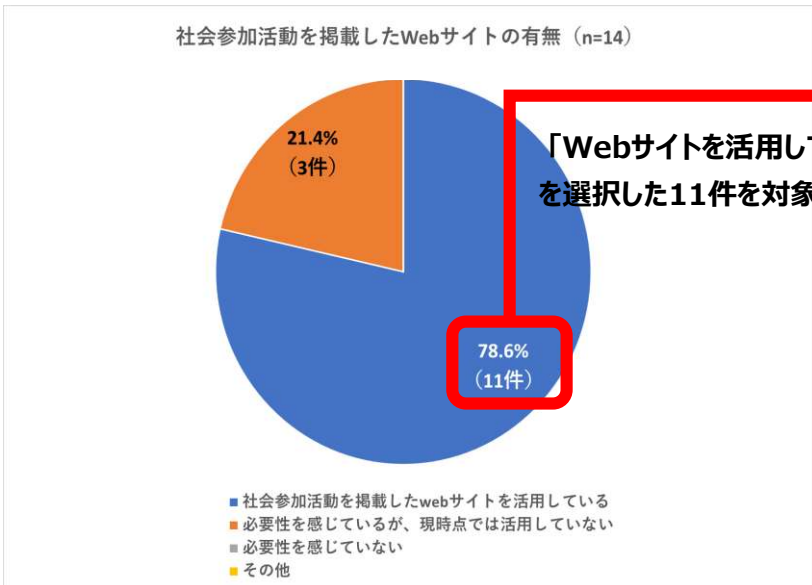
4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(2) Webサイトの機能

- 社会参加活動を掲載したWebサイトを活用している区市町村のWebサイトの機能としては、「社会参加活動の案件掲載」に次いで「案件検索」が72.7%（8件）で大きい。

4. Webサイトを活用したマッチング事業について
 (2) Webサイトの機能
 Webサイトの機能を教えてください。【複数回答可】
 ※ (1) で「ア.社会参加活動を掲載したWebサイトを活用している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動を掲載したWebサイトの有無（再掲）】



【Webサイトの機能（複数回答可）】

機能	n	%
社会参加活動の案件掲載	11	100.0%
案件検索（条件、キーワード等による）	8	72.7%
希望する案件への申込	6	54.5%
利用者登録	6	54.5%
お問い合わせフォーム	6	54.5%
活動の評価	3	27.3%
その他	1	9.1%
合計	11	

【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- サイトは現在、社会福祉法人限定で運用活用しているが、ボランティアを募集する団体登録は外部企業や団体も登録可能なシステムとなっており、今後は徐々に他社展開を進めていく方向となっている。現在使いやすさを追求しシステム改修中。

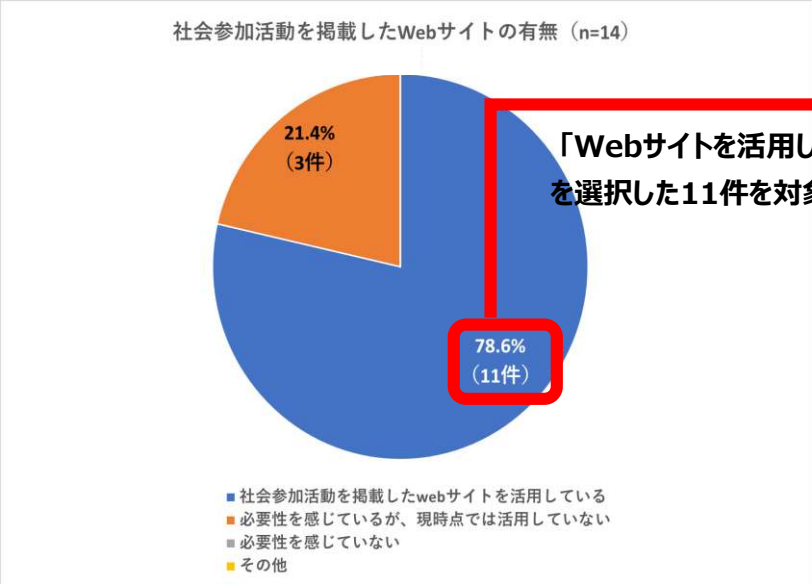
4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(3) Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法

- 活動情報の掲載方法は区市町村ごとに異なるが、「団体や関係機関がweb上で直接登録する方法」が36.4% (4件) で最も割合が大きかった。

4. Webサイトを活用したマッチング事業について
 (3) Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法
 Webサイトに掲載する社会参加活動の情報をどのように集めているか教えてください。【複数回答可】
 ※ (1) で「ア.社会参加活動を掲載したWebサイトを活用している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動を掲載したWebサイトの有無 (再掲)】



【Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法 (複数回答可)】

	n	%
社会参加活動団体や関係機関がweb上に新規の活動を直接登録し、webサイトの運営者 (区市町村・委託事業者・補助事業者等) が承認する仕組みを構築している。	4	36.4%
新規の活動が発生した際に、社会参加活動団体や関係機関が運営者にメール等で連絡し、運営者がwebサイトに掲載する。	3	27.3%
運営者が一定の頻度で社会参加活動団体や関係機関に確認を行い、新規の活動があった場合はwebサイトに掲載する。	3	27.3%
その他	1	9.1%
合計	11	

【「その他」の内容 (自由記述回答から抜粋)】

- 区内の関係機関 (行政、社会福祉協議会、高齢者相談センター、ふれあい相談員、いきいきプラザなど) から寄せられる情報の収集・管理を、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを中心に行っている。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(1) マッチング事業を行うにあたって必要な支援

- マッチング事業を行うにあたって必要な支援としては、「相談支援や社会参加活動の掘り起こしを行うコーディネーターの確保に対する財政支援」が76.4%（42件）で最も割合が大きく、次いで「コーディネーターの育成に対する研修等の支援」が70.9%（39件）であった。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(1) マッチング事業を行うにあたって必要な支援

貴区市町村がシニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を行うにあたって、どのような支援が必要と考えますか。【複数回答可】

【マッチング事業を行うにあたって必要な支援（複数回答可）】

		n	%
財政 支援	相談支援や社会参加活動の掘り起こしを行うコーディネーターの確保に対する財政支援	42	76.4%
	Webサイトの構築や保守に関する財政支援	24	43.6%
	相談支援窓口、社会参加活動の情報収集、webサイト等の広報に対する財政支援	26	47.3%
技術的 支援	相談支援や社会参加活動の掘り起こしを行うコーディネーターの育成に対する研修等の支援	39	70.9%
	Webサイトの構築や保守に関する技術的支援	17	30.9%
	相談支援窓口、社会参加活動の情報収集、webサイト等の広報に対する技術的支援	24	43.6%
その他		6	10.9%
合計		55	

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(2) 都のWebサイト（オンラインプラットフォーム）構築にあたってのご要望等

- 都のWebサイト（オンラインプラットフォーム）構築に関して、以下のような要望があげられた。

主な自由記述回答（抜粋）

● 活動団体等との調整

- あらゆる分野の活動団体を拾い上げ、掲載了承を得るのは難しいのではないかと考える。また、掲載することによる団体側のメリットに具体性が必要だと考える。
- オンラインプラットフォームの内容が決まってきた時点で、掲載できる内容及び範囲については、法人側との調整が必要になると思われる。
- Webサイトを掲載する団体へ、都からの使用目的や概要についての案内文が必要と感じる。

● 情報の連携が効率的に行われる仕組み

- 既存のWebサイトについてリンクを貼るなどの連携を希望する。
- サイト連携の手間がない形で集約いただきたい。情報連携する際に、こちらで入力や更新の手間が多いと活用が難しい。
- 市域外の情報を把握できることは今後のマッチングの選択肢の幅が広がると感じる。収集している情報の種類や項目は区市町村によって異なると思うので、基本情報をベースとしながら掲載項目を任意で追加できる形にする等、工夫いただけると良いと思う。

● 市の事業との棲み分け

- 市としてはマッチング事業よりも、興味がない層への働きかけが重要と考えており、マッチングの部分を都の事業として広域的にやっていただければ棲み分けができて効率的だと考える。

● 類似事業のwebサイトとの関係

- 類似のサイトが増えると分かりにくいので、東京ホームタウンプロジェクトのホームページの内容と重ならないようにしてほしい。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(3) 自由意見 (1/2)

- シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング全般に関して、以下のような意見・要望があげられた。

主な自由記述回答 (抜粋)

● 既存の類似事業や仕組みとの棲み分けの整理

- 生活支援体制整備事業等、類似の事業が存在しているので、各事業のすみ分け等をお願いしたい。
- 相談窓口の作り過ぎではないか。シニアには地域包括支援センターがあり、プレシニア（シニア）はボランティアセンターや公民館で生涯学習の所管がある。規模が小さい自治体では、どこかの窓口相談すれば、所管窓口に案内される。

● 企業（受け入れ側）へのアプローチ

- 無料職業紹介事業を行う中で、高齢者雇用を積極的に行う企業の少なさに苦慮しており、受け入れ側へのアプローチが最大の課題ではないかと感じている。

● 多世代が活用できる仕組みの整備

- 問い合わせがあれば、シニア・プレシニアに限定せず生涯学習関連の講座や各種団体の案内等を行っているため、マッチングする事業の参加可能な対象年齢がわかり、年齢を制限せず多世代が活用できるフォーマットにすると、より広範囲で利便性の高い制度になると考える。

● 男性の社会参加の促進

- シニア・プレシニアの男性の社会参加が大きなテーマだと考えている。地域や社会とのつながりは煩わしいと感じる人も多いかもしれないが、より良い社会の実現のためにも、充実した個人の人生のためにも社会参加することが有用であることをどのように伝えるべきか。当たり前社会参加できるような機運を作るような働きかけを国や都にはお願いしたい。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(3) 自由意見 (2/2)

- シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング全般に関して、以下のような意見・要望があげられた。

主な自由記述回答 (抜粋)

● 目的やアウトカムを意識した仕組みの設計

- マッチングできた件数を成果指標にしてしまうと本末転倒になりかねないので、マッチングを事業化することの目的やアウトカムを見定めて設計していただければありがたい。

● 都民志向の事業の必要性

- 会議体からの総論としての提言・提案に基づき、各論として基礎自治体を実施を求める事業については、市民志向からずれているものが見受けられる。まず、プロトタイプとして、大中小規模自治体に在住する、幅広い年齢層・家族形態の市民を利用者として見立て、実施・検証を行い、市民ニーズに合致していて効果が出ることを確認してから区市町村におろしていただきたい。

● 都民が本音で求めるインセンティブ設計

- 今後、定年延長後の再任用などがあれば、更に、リタイアする時点での高年齢化が進むのではないかと思われ、このような状況にある中で、シニア・プレシニアの地域活動への参加を促進するためには、本音で参加したいと思うインセンティブ設計が非常に重要と思われる。善意に頼るインセンティブでは、現状を変えることは難しく思う。

● 地域の資源や人材を考慮した検討の必要性

- 離島であることから、資源も人材も限られており、本事業を実施したときに有効に機能しない可能性があると考えられる。事業として実施する必要性は低いように感じる。

区市町村向けアンケート調査結果 まとめ

<マッチング事業全般>

- シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業を実施している区市町村が全体の1/4程度にとどまっていることや、実施している区市町村においても地域外の情報を把握できることは有効であるという意見があることを踏まえると、社会参加活動の更なる促進に向けて、都が広域的なマッチングの仕組みを整備する等区市町村を支援することが効果的・効率的だと考えられる。
- 区市町村から都民ニーズや地域の資源や人的制約等を考慮した検討の必要性が指摘されており、引き続き都民や区市町村の声を丁寧に確認しながら検討を進めることが必要と考えられる。

<相談支援>

- 生活支援体制整備事業等の一環として、マッチング支援や総合的な相談支援窓口を提供している区市町村も存在しており、既存の類似事業との棲み分けや連携のあり方の検討も必要と考えられる。
- マッチング事業を行うにあたって必要な支援としては、コーディネーターの確保・育成に対する支援を求める割合が8割程度あることから、都として適切な支援を行っていく必要がある。

<社会参加活動の掘り起こし>

- 団体や関係機関と連携して、社会参加活動情報を幅広く収集できている区市町村が存在する一方、連携の必要性を感じつつ、連携が進んでいない区市町村も存在している。

<オンラインプラットフォーム>

- 都のWebサイト（オンラインプラットフォーム）構築に向けては、団体や関係機関との調整の必要性も指摘されており、区市町村、団体、関係機関、都の役割分担や仕組みの整理が必要と考えられる。
- 既存のwebサイトとの情報連携にあたっては、自動で情報を転送する等、効率的な実施が求められている。

シニア・プレシニア向けアンケート調査の概要

- 都内のシニア・プレシニアのオンラインプラットフォームの活用にあたっての要望、課題等を把握することを目的として、都内のシニア・プレシニアを対象としたWebアンケート調査を実施。調査の概要は以下のとおり。

シニア・プレシニアに関するアンケート調査

調査目的	<ul style="list-style-type: none">都内のシニア・プレシニアのオンラインプラットフォームの活用にあたっての要望、課題等を把握すること
調査対象者	<ul style="list-style-type: none">社会参加活動に関心があり、東京都内に住む50歳以上の男女（≒オンラインプラットフォームのアーリーアダプター層） ※社会参加全般に関する意向は過年度調査にて確認済みのため、今回はアーリーアダプター層のニーズや課題認識を確認することを主とする想定。※Webアンケート調査での実施となるため、回答者は比較的ITリテラシーが高い層になる見込み。
調査方法	<ul style="list-style-type: none">調査会社の登録モニターへのWebアンケート調査
サンプル数	<ul style="list-style-type: none">最大2,000サンプル※スクリーニング調査後のサンプル数
割り付け条件	<ul style="list-style-type: none">「社会参加活動に関心がある」かつ「都内在住」かつ「50代以上」を条件としたスクリーニング調査により対象を抽出。50代、60代、70代の3区分についてそれぞれ約500サンプル確保する。80代以上については最大500サンプルとして実査期間中に回収できた件数までとする。50代、60代、70代の3区分については男女比が均等になるようにする。
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">基本情報（世帯構成、身体の状態、ICT機器等の利用状況）社会参加活動の実施状況オンラインプラットフォームの活用に関する認識広域的な社会参加活動の現状・ニーズ

※当アンケートにおけるプレシニアとは概ね50歳～65歳の方を想定

シニア・プレシニア向けアンケート調査の施策への影響（設問の意義等）

- 調査項目ごとの具体的な設問及び施策への影響（設問の意義等）は以下のとおり。

調査項目	設問	施策への影響（設問の意義等）
基本情報	<ul style="list-style-type: none"> 世帯構成 身体の状態 	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報のため施策等への影響は特段なし。
社会参加活動の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 実施している社会参加活動の内容・頻度・理由 社会参加活動の今後の実施意向 社会参加活動に関する情報の入手状況・方法 社会参加活動を行う際に相談・利用している窓口 一緒に社会参加活動を行いたい方の属性 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの必要性・意義の訴求 広報・普及啓発方法への活用 案件情報の収集経路の把握 相談支援窓口に対する施策検討 プラットフォームの機能設計への影響
オンラインプラットフォームの活用に関する認識	<ul style="list-style-type: none"> オンラインプラットフォームの利用意向 オンラインプラットフォームに求める機能 オンラインプラットフォームを利用する際に用いる機器 オンラインプラットフォームを利用したいと思わない理由 オンラインプラットフォームの活用にあたって必要な支援 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの必要性・意義の訴求 プラットフォームの機能設計への影響 プラットフォームのレスポンシブデザインへの影響 プラットフォームの普及に向けた支援施策への影響
広域的な社会参加活動の現状・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 他の区市町村の活動への参加状況 他の区市町村の活動への参加理由 他の区市町村の活動参加するにあたっての課題・ハードル 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの必要性・意義の訴求 プラットフォームの機能設計への影響

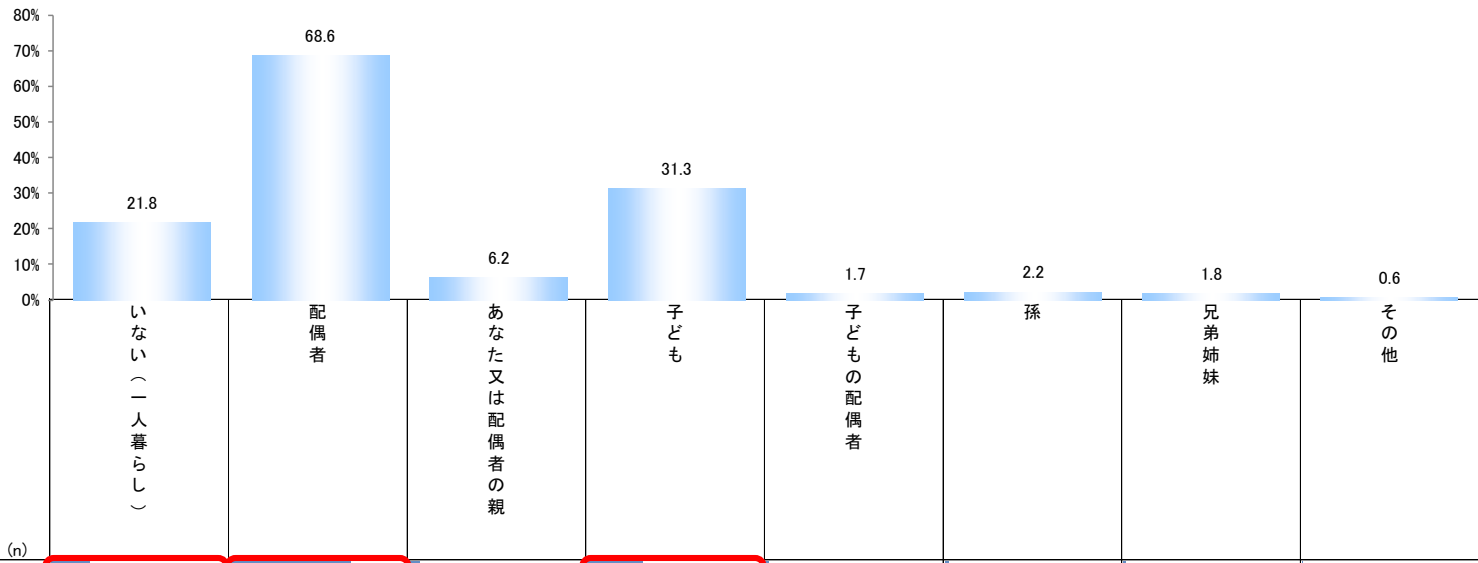
1. 基本情報

(1) 世帯構成

- 回答者の世帯構成としては、全体では「独居（一人暮らし）」が21.8%で、8割弱は同居人ありであった。
- 同居している家族の属性としては、「配偶者」が68.6%で最も割合が大きく、次いで「子ども」が31.3%であった。

1. 基本情報（1）世帯構成
現在一緒にお住まいの方は次のうちどなたですか。（複数選択）

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】



		(n)	いない（一人暮らし）	配偶者	あなた又は配偶者の親	子ども	子どもの配偶者	孫	兄弟姉妹	その他
全体		1908	21.8	68.6	6.2	31.3	1.7	2.2	1.8	0.6
性別×年代	男性×50代	250	27.2	59.6	16.0	42.4	0.8	0.0	4.0	1.2
	男性×60代	250	15.6	80.0	8.8	40.4	0.8	2.0	1.2	0.4
	男性×70代	341	10.3	86.5	2.1	28.2	2.6	3.5	0.6	0.0
	男性×80代以上	159	10.1	86.2	0.0	20.1	4.4	6.3	0.0	0.0
	女性×50代	250	23.2	63.2	10.0	37.6	0.4	0.0	3.2	1.2
	女性×60代	250	23.6	63.6	7.2	30.0	0.8	1.2	1.2	0.8
	女性×70代	363	33.3	53.7	1.4	21.8	1.9	2.8	2.2	0.6
	女性×80代以上	45	42.2	33.3	2.2	31.1	4.4	4.4	0.0	0.0

1. 基本情報

(2) 身体の状態

- 回答者の身体の状態としては、全体では「普通に生活ができる」が87.9%であった。
- 性別・年代別にみると、80代以上では「日常生活も外出もほぼ自分でできる」の割合が男性で27.7%、女性で24.4%とやや大きくなっているが、介助が必要な方は1割未満であった。

1. 基本情報 (2) 身体の状態
 あなたの身体の状態としてあてはまるものをご回答ください。(1つ選択)

【単純集計、クロス集計 (性別×年代)、n = 1,908】

		該当数	普通に生活ができる	日常生活も外出もほぼ自分でできる	外出時だけ介助(手助け)が必要	日常生活に介助(手助け)が必要	全面的に介助(手助け)が必要(寝たきり等)
全体		1908	87.9	10.5	0.7	0.8	0.0
性別×年代	男性×50代	250	94.0	5.2	0.8	0.0	0.0
	男性×60代	250	93.6	5.2	0.0	1.2	0.0
	男性×70代	341	85.6	12.9	0.6	0.9	0.0
	男性×80代以上	159	67.3	27.7	3.8	1.3	0.0
	女性×50代	250	94.8	4.0	0.4	0.8	0.0
	女性×60代	250	92.4	6.4	0.0	1.2	0.0
	女性×70代	363	85.4	13.5	0.3	0.8	0.0
	女性×80代以上	45	71.1	24.4	4.4	0.0	0.0

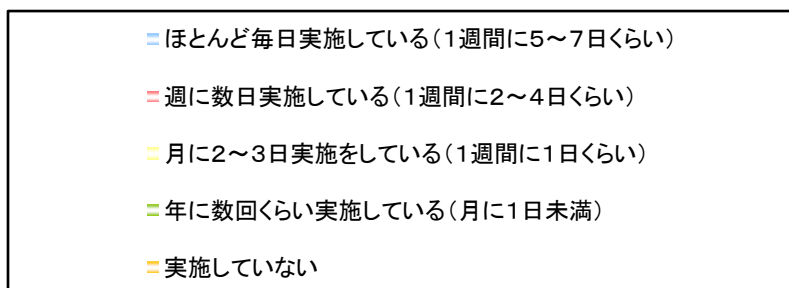
2. 社会参加活動の実施状況

(1) 実施している社会参加活動の内容・頻度：就労

- 就労を「実施していない」割合は全体では49.3%であった。
- 男女ともに、年代が上がるにつれて「実施していない」の割合が大きくなる傾向がみられた。

2. 社会参加活動の実施状況 (1) 実施している社会参加活動の内容・頻度：就労
社会参加活動の実施状況としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。(それぞれ1つ選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】



		(n)	(%)						
全体		1908	31.3	14.0	3.3	2.0	49.3		
性別 × 年代	男性×50代	250	77.6			6.8	0.8	12.0	
	男性×60代	250	54.8			16.8	3.6	0.8	24.0
	男性×70代	341	17.9	17.3	4.4	4.4	56.0		
	男性×80代以上	159	6.9	3.1	3.1	1.9	84.9		
	女性×50代	250	45.2			19.2	2.4	1.6	31.6
	女性×60代	250	23.2	23.2	4.8	1.6	47.2		
	女性×70代	363	6.1	10.2	3.9	0.6	79.3		
	女性×80代以上	45	2.2	4.4	0.0	4.4	88.9		

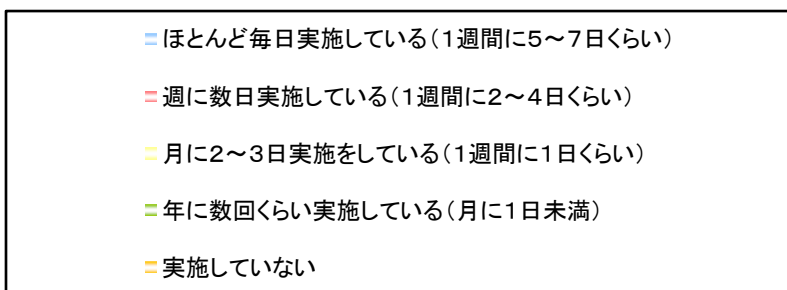
2. 社会参加活動の実施状況

(1) 実施している社会参加活動の内容・頻度：ボランティア活動

- ・ ボランティア活動を「実施していない」割合は全体では65.7%であった。
- ・ 女性は、年代が上がるにつれて「実施していない」の割合が小さくなる傾向がみられた。

2. 社会参加活動の実施状況 (1) 実施している社会参加活動の内容・頻度：ボランティア活動
社会参加活動の実施状況としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。(それぞれ1つ選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】



		(n)	(%)				
全体		1908	1.2	4.0	9.2	19.9	65.7
性別 × 年代	男性×50代	250	0.8	0.8	8.4	22.8	67.2
	男性×60代	250	2.8	0.8	6.0	22.0	68.4
	男性×70代	341	2.1	6.2	12.0	21.1	58.7
	男性×80代以上	159	1.3	3.1	13.2	15.1	67.3
	女性×50代	250	2.4	0.8	4.0	20.8	72.0
	女性×60代	250	1.2	2.8	8.4	18.0	69.6
	女性×70代	363	0.8	6.3	11.6	18.5	62.8
	女性×80代以上	45	2.2	11.1	11.1	17.8	57.8

2. 社会参加活動の実施状況

(1) 実施している社会参加活動の内容・頻度：学び・趣味活動

- ・ 学び・趣味活動を「実施していない」割合は全体では24.4%であった。
- ・ いずれの性別・年代でも「実施していない」割合は20%台であった。

2. 社会参加活動の実施状況 (1) 実施している社会参加活動の内容・頻度：学び・趣味活動
社会参加活動の実施状況としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。(それぞれ1つ選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】

- ほとんど毎日実施している(1週間に5～7日くらい)
- 週に数日実施している(1週間に2～4日くらい)
- 月に2～3日実施をしている(1週間に1日くらい)
- 年に数回くらい実施している(月に1日未満)
- 実施していない

		(n)	(%)				
全体		1908	10.9	22.3	26.3	16.1	24.4
性別 × 年代	男性×50代	250	9.6	20.8	25.2	18.8	25.6
	男性×60代	250	10.4	18.0	24.8	18.4	28.4
	男性×70代	341	12.9	20.5	29.9	15.2	21.4
	男性×80代以上	159	8.8	21.4	28.9	15.7	25.2
	女性×50代	250	11.6	18.0	25.2	18.8	26.4
	女性×60代	250	9.6	23.6	26.0	15.2	25.6
	女性×70代	363	10.5	30.3	25.1	12.9	21.2
	女性×80代以上	45	20.0	22.2	22.2	11.1	24.4

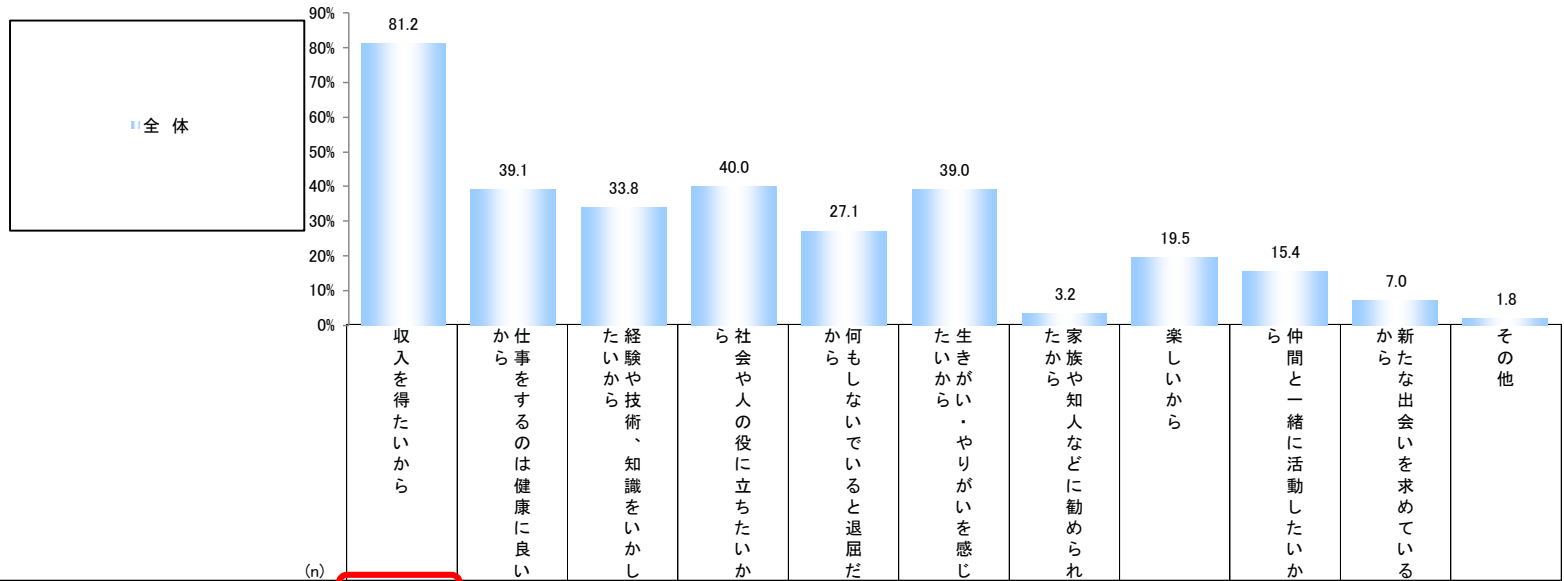
2. 社会参加活動の実施状況

(2) 社会参加活動を実施している理由：就労

- 就労をしている理由としては、全体では「収入を得たいから」が81.2%で突出して割合が大きい。
- 性別・年代別にみても「収入を得たいから」の割合が大きい傾向は同様だが、年代が上がるにつれて「仕事をするのは健康に良いから」といった収入以外の割合が大きくなっていった。

2. 社会参加活動の実施状況 (2) 社会参加活動を実施している理由：就労 あなたが就労をしている理由として、あてはまるものをすべて選択してください。(複数選択)

【単純集計、クロス集計(性別×年代)、n=967】



(n)		収入を得たいから	仕事をするのは健康に良いから	経験や技術、知識をいかしたいから	社会や人の役に立ちたいから	何もしないでいると退屈だから	生きがい・やりがいを感じたいから	家族や知人などに勧められたから	楽しいから	仲間と一緒に活動したいから	新たな出会いを求めているから	その他	
全体	967	81.2	39.1	33.8	40.0	27.1	39.0	3.2	19.5	15.4	7.0	1.8	
性別×年代	男性×50代	220	91.4	19.5	25.0	35.9	17.7	31.8	2.3	11.4	9.5	5.5	2.3
	男性×60代	190	84.2	38.9	31.1	37.4	35.8	38.4	2.1	11.1	12.1	7.4	1.6
	男性×70代	150	63.3	58.7	41.3	42.7	27.3	38.0	5.3	23.3	24.7	8.7	1.3
	男性×80代以上	24	50.0	62.5	41.7	45.8	29.2	45.8	0.0	16.7	12.5	20.8	0.0
	女性×50代	171	90.1	27.5	30.4	41.5	26.9	38.6	1.2	21.1	14.6	4.1	0.6
	女性×60代	132	81.8	47.0	41.7	40.9	31.8	47.7	3.8	31.8	18.2	7.6	2.3
	女性×70代	75	68.0	62.7	42.7	44.0	25.3	46.7	9.3	30.7	20.0	9.3	2.7
	女性×80代以上	5	80.0	40.0	40.0	80.0	0.0	40.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0

2. 社会参加活動の実施状況

(3) 社会参加活動を実施している理由：ボランティア活動

- ボランティア活動をしている理由としては、全体では「社会や人の役に立ちたいから」が69.7%で突出して割合が大きい。
- 年代が上がるにつれて「活動をするのは健康によいから」、「生きがい・やりがいを感じたいから」、「仲間と一緒に活動したいから」といった収入以外の割合が大きくなっていった。

2. 社会参加活動の実施状況 (3) 社会参加活動を実施している理由：ボランティア活動
 あなたがボランティア活動をしている理由として、あてはまるものをすべて選択してください。(複数選択)

【単純集計、クロス集計(性別×年代)、n = 654】



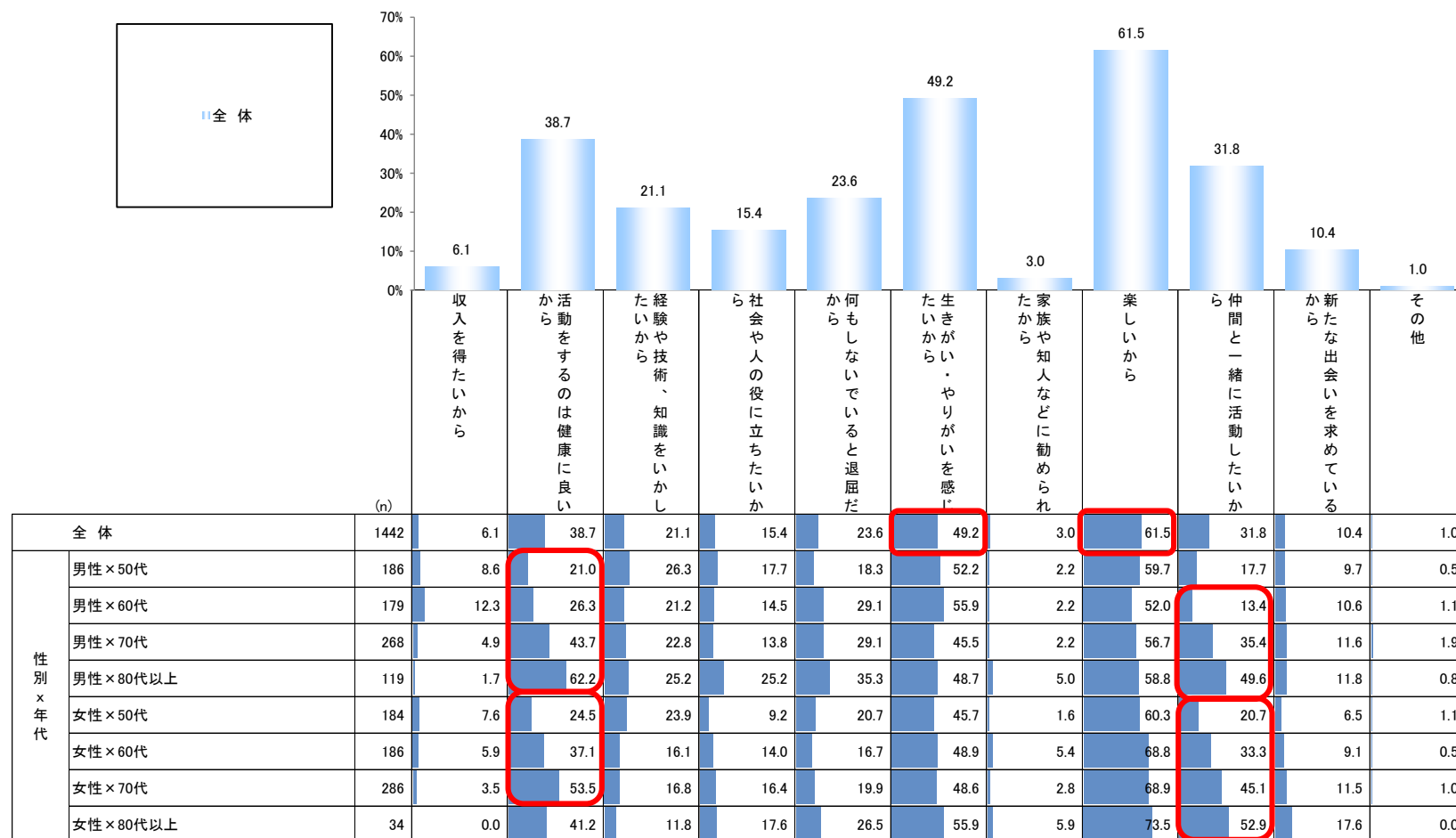
2. 社会参加活動の実施状況

(4) 社会参加活動を実施している理由：学び・趣味活動

- 学び・趣味活動をしている理由としては、全体では「楽しいから」が61.5%で最も割合が大きく、次いで「生きがい・やりがいを感じたいから」が49.2%であった。
- 年代が上がるにつれて「活動をするのは健康によいから」、「仲間と一緒に活動したいから」の割合が大きくなっていった。

2. 社会参加活動の実施状況 (4) 社会参加活動を実施している理由：学び・趣味活動
 あなたが学び・趣味活動をしている理由として、あてはまるものをすべて選択してください。(複数選択)

[単純集計、クロス集計(性別×年代)、n=1,442]



2. 社会参加活動の実施状況

(5) 社会参加活動の今後の実施意向：就労

- 就労の今後の実施意向としては、全体では「実施したいと思う」が58.2%であった。
- 性別・年代別にみると、年代が上がるにつれ、実施意向が低下する傾向があり、「実施したいと思う」の割合は「男性80代以上」では27.0%「女性80代以上」では13.3%であった。

2. 社会参加活動の実施状況 (5) 社会参加活動の今後の実施意向：就労
 社会参加活動の今後の実施意向としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。(それぞれ1つ選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】

■ 実施したいと思う ■ 実施したいと思わない ■ その他

		(n)				(%)
全体		1908	58.2	40.8	1.0	
性別 × 年代	男性×50代	250	89.6	10.4	0.0	
	男性×60代	250	76.0	23.6	0.4	
	男性×70代	341	48.7	49.3	2.1	
	男性×80代以上	159	27.0	72.3	0.6	
	女性×50代	250	83.2	16.4	0.4	
	女性×60代	250	64.0	35.6	0.4	
	女性×70代	363	31.1	67.5	1.4	
	女性×80代以上	45	13.3	77.8	8.9	

2. 社会参加活動の実施状況

(5) 社会参加活動の今後の実施意向：ボランティア活動

- 学び・趣味活動の今後の実施意向としては、全体では「実施したいと思う」が72.1%であった。
- 性別・年代別にみると、「男性80代以上」のみ62.3%とやや割合が小さい傾向があったが、その他の区分は「実施したいと思う」の割合はいずれも7割を超えていた。

2. 社会参加活動の実施状況 (5) 社会参加活動の今後の実施意向：ボランティア活動
 社会参加活動の今後の実施意向としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。(それぞれ1つ選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】

■ 実施したいと思う ■ 実施したいと思わない ■ その他

		(n)	%		
全体		1908	72.1	24.6	3.2
性別 × 年代	男性×50代	250	75.6	21.6	2.8
	男性×60代	250	70.4	26.4	3.2
	男性×70代	341	70.4	26.4	3.2
	男性×80代以上	159	62.3	35.8	1.9
	女性×50代	250	77.6	19.6	2.8
	女性×60代	250	75.2	21.2	3.6
	女性×70代	363	70.5	25.6	3.9
	女性×80代以上	45	75.6	17.8	6.7

2. 社会参加活動の実施状況

(5) 社会参加活動の今後の実施意向：学び・趣味活動

- 学び・趣味活動の今後の実施意向としては、全体では「実施したいと思う」が91.2%であった。
- 性別・年代別にみても、いずれの区分も「実施したいと思う」が9割前後であった。

2. 社会参加活動の実施状況 (5) 社会参加活動の今後の実施意向：学び・趣味活動

社会参加活動の今後の実施意向としてあてはまるものをそれぞれ1つずつ選択してください。(それぞれ1つ選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】

■ 実施したいと思う ■ 実施したいと思わない ■ その他

		(n)				(%)
全体		1908	91.2			8.0 0.8
性別 × 年代	男性×50代	250	92.8			6.0 1.2
	男性×60代	250	88.8			10.4 0.8
	男性×70代	341	90.3			8.5 1.2
	男性×80代以上	159	86.8			12.6 0.6
	女性×50代	250	92.8			7.2 0.0
	女性×60代	250	90.4			9.2 0.4
	女性×70代	363	93.7			5.2 1.1
	女性×80代以上	45	93.3			6.7 0.0

2. 社会参加活動の実施状況

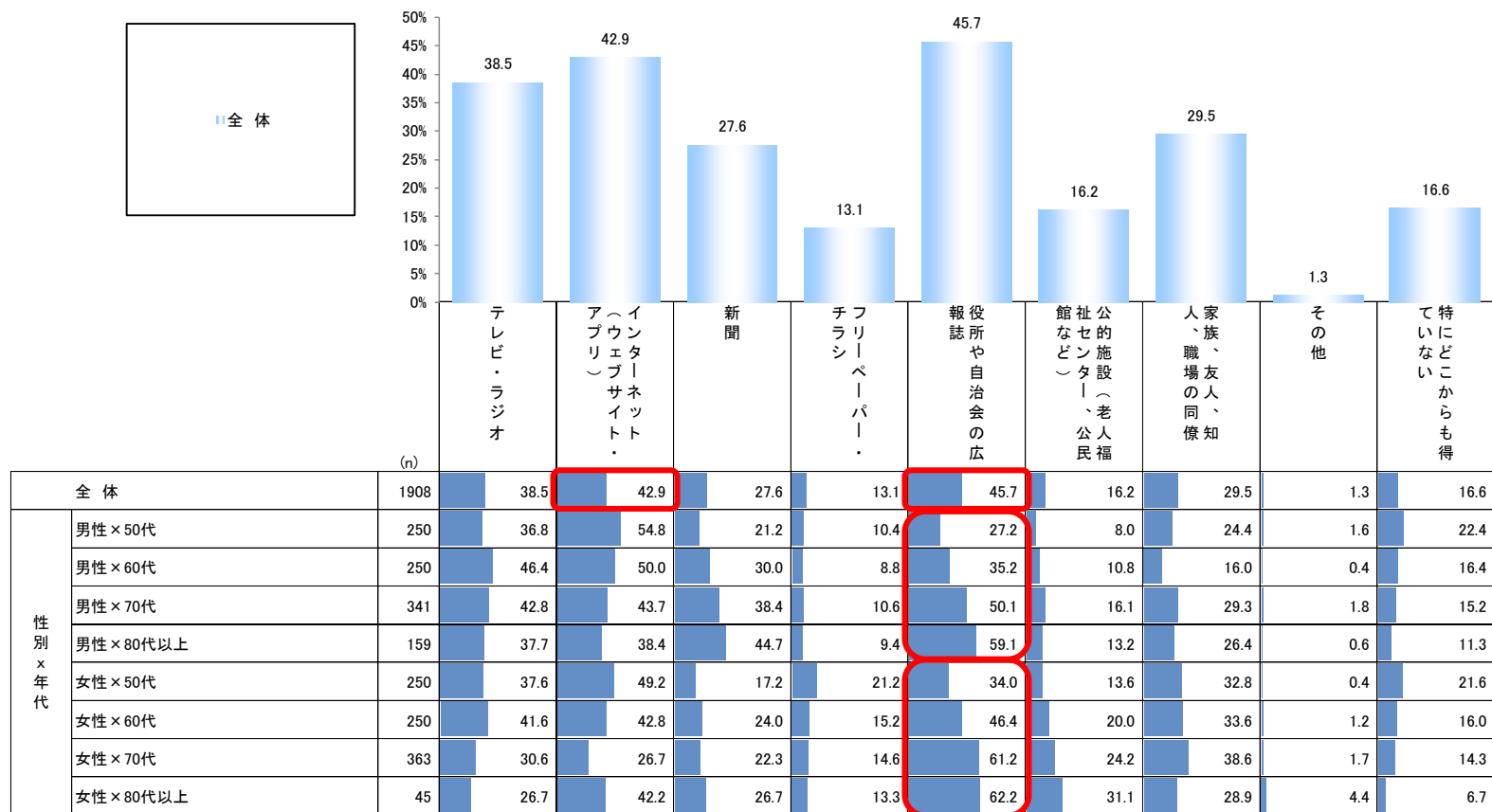
(6) 社会参加活動に関する情報の入手状況・方法

- 社会参加活動に関する情報の入手状況・方法としては、全体では「役所や自治会の広報誌」が45.7%で最も割合が大きく、次いで「インターネット」が42.9%であった。
- 男女ともに、年代が上がるにつれて「役所や自治会の広報誌」の割合が大きくなる傾向がみられた。

2. 社会参加活動の実施状況 (6) 社会参加活動に関する情報の入手状況・方法

あなたは「社会参加活動」に関する情報をどこから得ていますか。特に情報を得ていない場合は「特にどこからも得ていない」を選択してください。(複数選択)

【単純集計、クロス集計(性別×年代)、n = 1,908】



2. 社会参加活動の実施状況

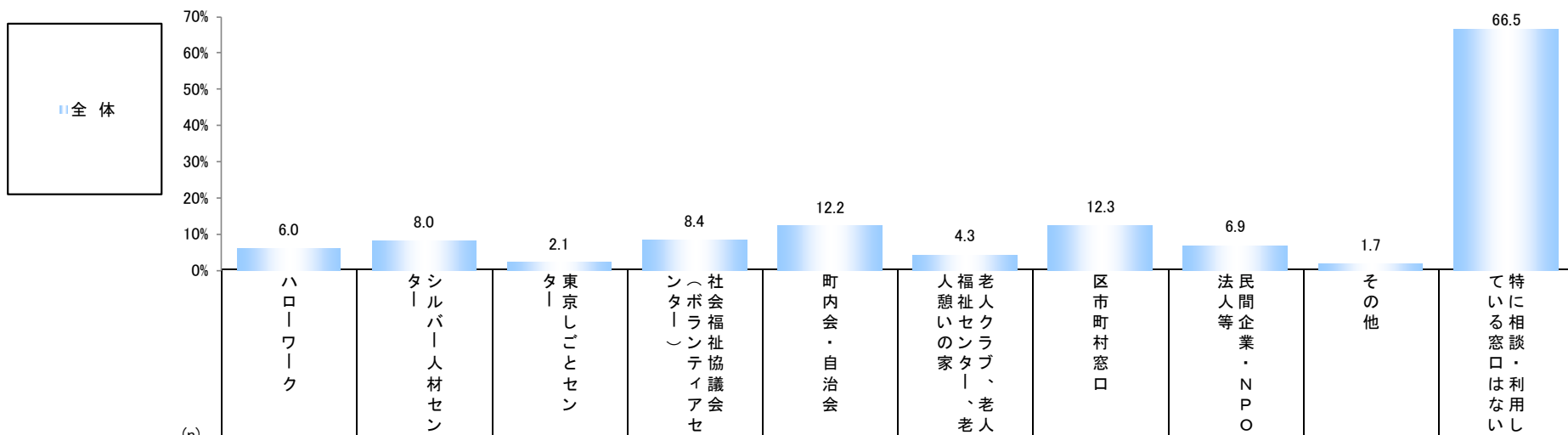
(7) 社会参加活動を行う際に相談・利用している窓口

- 社会参加活動を行う際に相談・利用している窓口としては、全体、性別・年代別のいずれでも「特に相談・利用している窓口はない」が最も割合が大きく、全体では66.5%であった。

2. 社会参加活動の実施状況 (7) 社会参加活動を行う際に相談・利用している窓口

あなたが「社会参加活動」を行う際に相談・利用している窓口としてあてはまるものをすべて選択してください。特に相談等をしていない場合は「特に相談・利用している窓口はない」を選択してください。(複数選択)

【単純集計、クロス集計(性別×年代)、n = 1,908】



		(n)	ハローワーク	シルバー人材センター	東京しごとセンター	社会福祉協議会(ボランティアセンター)	町内会・自治会	老人クラブ、老人憩いの家	区市町村窓口	民間企業・NPO法人等	その他	特に相談・利用しない
全体		1908	6.0	8.0	2.1	8.4	12.2	4.3	12.3	6.9	1.7	66.5
性別×年代	男性×50代	250	8.0	4.0	4.0	6.4	11.6	1.6	14.8	12.4	1.6	66.8
	男性×60代	250	10.8	8.4	3.6	7.2	10.4	1.2	12.8	6.8	1.6	69.2
	男性×70代	341	6.2	15.0	1.8	8.2	16.1	4.4	12.6	6.7	2.1	61.6
	男性×80代以上	159	2.5	13.2	0.6	13.8	22.0	11.3	17.6	5.7	3.8	52.8
	女性×50代	250	8.0	2.4	3.2	6.4	5.6	2.0	8.0	7.6	2.0	74.0
	女性×60代	250	5.2	6.0	1.2	6.8	7.2	2.0	8.4	5.2	1.2	77.2
	女性×70代	363	2.8	7.2	0.8	10.5	13.5	7.4	13.5	4.7	0.8	63.6
	女性×80代以上	45	0.0	6.7	0.0	13.3	15.6	11.1	8.9	6.7	2.2	57.8

2. 社会参加活動の実施状況

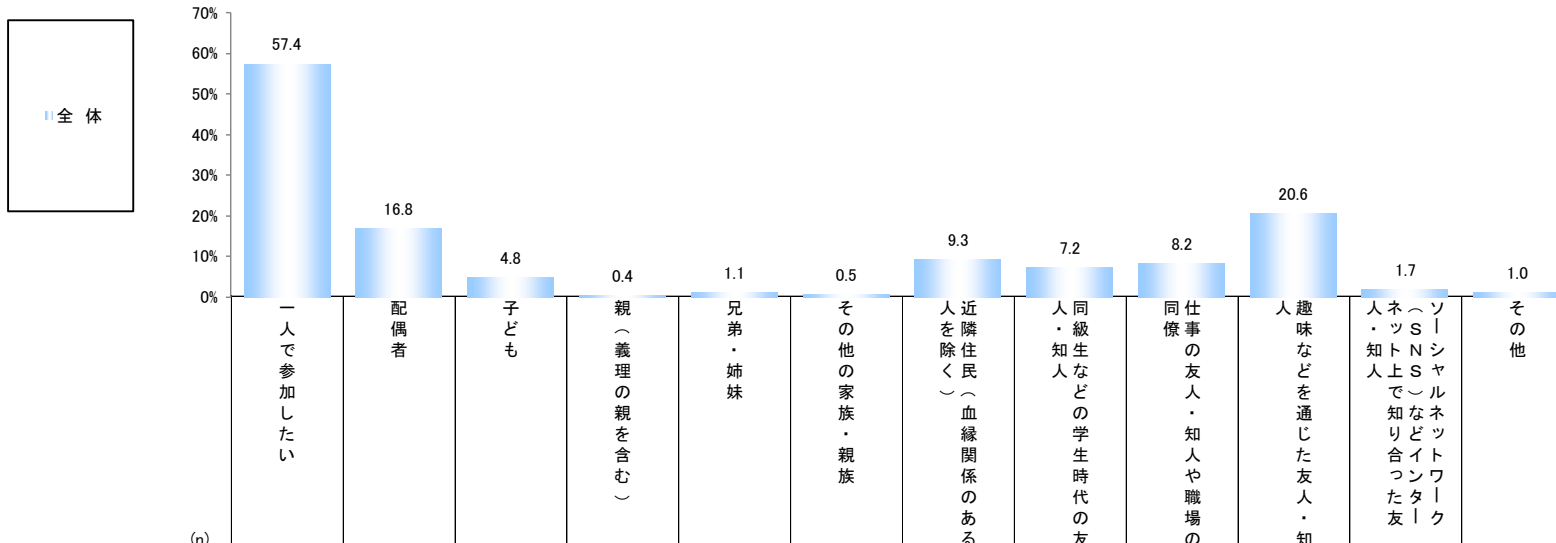
(8) 一緒に社会参加活動を行いたい方の属性

- 一緒に社会参加活動を行いたい方の属性としては、全体では「一人で参加したい」が57.4%で最も割合が大きく、次いで「趣味などを通じた友人・知人」が20.6%、配偶者が16.8%であった。

2. 社会参加活動の実施状況 (8) 一緒に社会参加活動を行いたい方の属性

あなたは社会参加活動を行う際に、誰かと一緒に参加したいと思いますか。一緒に参加したい方としてあてはまるものをすべて選択してください。一人で参加したいと考える方は「一人で参加したい」を選択してください。(複数選択)

【単純集計、クロス集計(性別×年代)、n = 1,908】



		(n)	一人で参加したい	配偶者	子ども	親(義理の親を含む)	兄弟・姉妹	その他の家族・親族	近隣住民(血縁関係のある人を除く)	同級生などの学生時代の友人・知人	仕事の友人・知人や職場の同僚	趣味などを通じた友人・知人	ネット上で知り合った友人(SNSなど)	その他
全体		1908	57.4	16.8	4.8	0.4	1.1	0.5	9.3	7.2	8.2	20.6	1.7	1.0
性別×年代	男性×50代	250	59.2	25.6	10.4	0.4	0.4	0.0	5.2	6.0	8.8	16.4	2.4	0.0
	男性×60代	250	66.4	17.2	5.2	0.8	0.4	0.0	6.0	4.4	9.2	10.0	1.2	1.6
	男性×70代	341	61.9	16.4	2.3	0.3	0.0	0.3	9.4	8.2	6.5	18.2	1.5	1.5
	男性×80代以上	159	54.1	18.2	0.6	0.6	0.6	2.5	13.2	5.7	8.2	27.7	3.1	1.3
	女性×50代	250	49.6	21.6	8.4	0.8	2.4	0.4	8.8	8.8	13.2	19.6	2.8	0.4
	女性×60代	250	56.4	14.4	3.6	0.0	1.2	0.4	7.6	10.0	8.8	20.8	1.2	0.4
	女性×70代	363	54.3	10.2	3.0	0.3	2.2	0.6	14.0	6.9	5.2	29.2	1.1	1.1
	女性×80代以上	45	51.1	4.4	4.4	0.0	2.2	0.0	11.1	4.4	6.7	31.1	0.0	4.4

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

（1）オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の利用意向

- 全体のうち、オンラインプラットフォームを「利用したいと思う」は割合は61.0%であった。
- 年代が上がるにつれて利用意向は低下する傾向があるが、80代以上でも「利用したいと思う」が過半数を占める。

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

（1）オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の利用意向

「オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）」の利用意向として当てはまるものを選択してください。（1つ選択）

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,908】

■ 利用したいと思う ■ 利用したいと思わない ■ その他

		(n)	(%)		
全 体		1908	61.0	35.4	3.6
性別 × 年代	男性×50代	250	64.8	32.4	2.8
	男性×60代	250	68.0	28.0	4.0
	男性×70代	341	61.0	36.1	2.9
	男性×80代以上	159	52.8	45.3	1.9
	女性×50代	250	67.2	30.8	2.0
	女性×60代	250	58.4	34.8	6.8
	女性×70代	363	55.6	40.8	3.6
	女性×80代以上	45	51.1	40.0	8.9

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

(2) オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）に求める機能

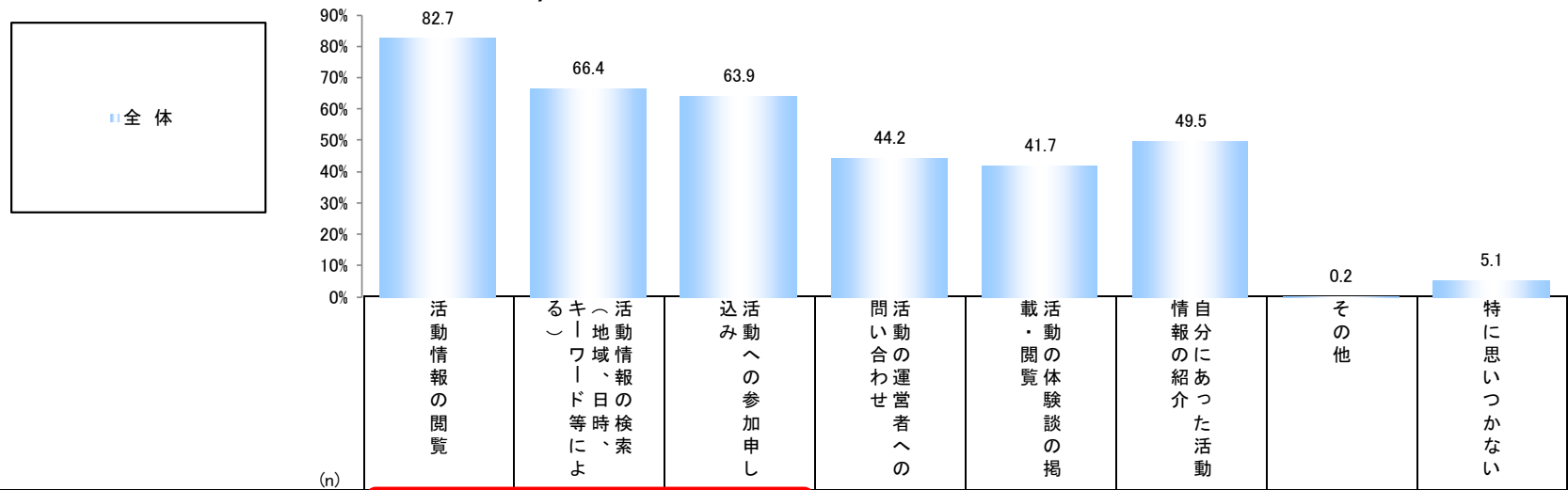
- オンラインプラットフォームを求める機能としては「活動情報の閲覧」が82.7%で最も割合が大きく、次いで「活動情報の検索」が66.4%、「活動への参加申し込み」が63.9%であった。性別・年代別で大きな傾向の差はみられなかったが、「自分にあった活動情報の紹介」については、年代が上がるほど回答割合が大きくなる傾向がみられた。

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

(2) オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）に求める機能

「オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）」に求める機能として、あてはまるものを全て選択してください。（複数選択）

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,163】



		(n)	活動情報の閲覧	活動情報の検索	活動への参加申し込み	活動の運営者への問い合わせ	活動の体験談の掲載・閲覧	自分にあった活動情報の紹介	その他	特に思いつかない
全体		1163	82.7	66.4	63.9	44.2	41.7	49.5	0.2	5.1
性別×年代	男性×50代	162	80.9	64.2	64.2	46.3	42.6	38.9	0.0	8.6
	男性×60代	170	84.1	60.6	62.9	40.6	31.8	34.7	0.0	5.9
	男性×70代	208	83.7	73.1	67.8	46.2	38.9	50.5	0.5	4.3
	男性×80代以上	84	79.8	64.3	50.0	35.7	38.1	66.7	0.0	1.2
	女性×50代	168	83.9	65.5	67.3	49.4	41.7	47.0	0.0	8.3
	女性×60代	146	83.6	67.1	68.5	45.2	48.6	52.7	0.0	4.1
	女性×70代	202	82.7	69.3	61.9	42.1	50.0	62.4	0.5	2.0
	女性×80代以上	23	73.9	47.8	47.8	43.5	30.4	47.8	0.0	4.3

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

（3）オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）を利用する際に用いる機器

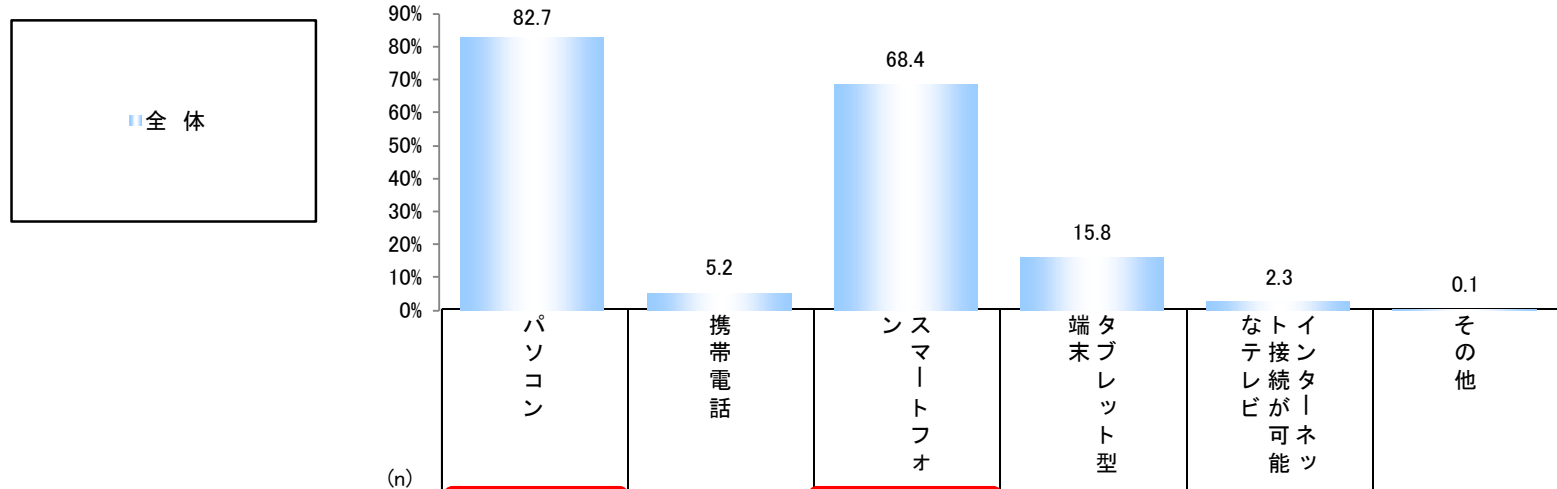
- オンラインプラットフォームを利用する際に用いる機器としては「パソコン」が82.7%で最も割合が大きく、次いで「スマートフォン」が68.4%であった。性別・年代別でも「パソコン」、「スマートフォン」の割合が大きい傾向が同様であったが、男性は年代が上がるほど「スマートフォン」の割合が大きく低下する傾向がみられた。

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

（3）オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）を利用する際に用いる機器

「オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）」を利用する際にあなたが用いる可能性がある情報端末等として、あてはまるものを全て選択してください。（複数選択）

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1,163】



		(n)	パソコン	携帯電話	スマートフォン	タブレット型	インターネット接続可能なテレビ	その他
全体		1163	82.7	5.2	68.4	15.8	2.3	0.1
性別×年代	男性×50代	162	81.5	7.4	80.2	16.7	2.5	0.0
	男性×60代	170	81.8	2.9	69.4	13.5	2.4	0.0
	男性×70代	208	91.8	3.8	62.0	18.3	2.9	0.0
	男性×80代以上	84	95.2	7.1	41.7	4.8	3.6	0.0
	女性×50代	168	72.6	4.8	76.8	20.8	3.0	0.0
	女性×60代	146	82.2	6.2	69.2	16.4	1.4	0.0
	女性×70代	202	80.2	4.5	68.3	14.9	1.5	0.0
	女性×80代以上	23	69.6	13.0	65.2	13.0	0.0	4.3

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

（5）オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用にあたって必要な支援

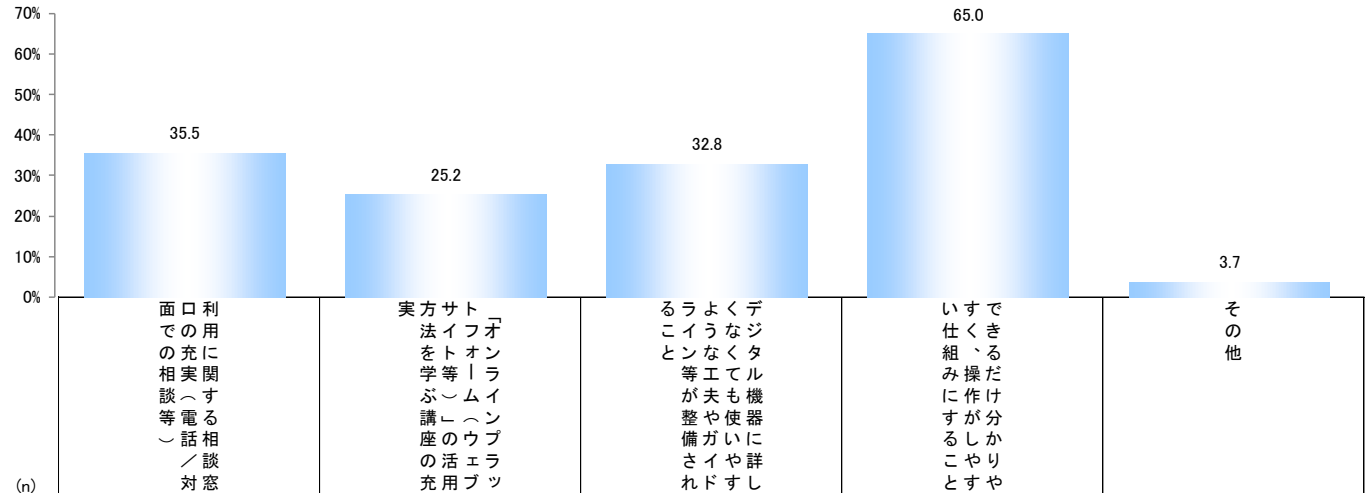
- オンラインプラットフォームの活用にあたって必要な支援としては、全体、性別・年代別のいずれでも「できるだけ分かりやすく、操作がしやすい仕組みにすること」が最も割合が大きく、全体では65.0%であった。

3.オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用に関する認識

（5）オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）の活用にあたって必要な支援

どのような支援があれば「オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）」を利用しやすくなりますか。当てはまるものを全て選択してください。（複数選択）

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1908】



(n)		面口利での充に相実関する相対窓	実方サト「オライオン」	るラよくデ	いすで	その他	
全体	1908	35.5	25.2	32.8	65.0	3.7	
性別×年代	男性×50代	250	35.2	29.2	29.6	64.0	3.2
	男性×60代	250	38.4	25.2	26.4	59.6	2.0
	男性×70代	341	35.2	23.5	29.9	61.3	5.0
	男性×80代以上	159	39.0	29.6	37.1	54.1	4.4
	女性×50代	250	36.0	25.6	29.6	66.8	4.0
	女性×60代	250	33.2	23.6	36.8	71.2	5.2
	女性×70代	363	33.3	23.4	38.6	72.5	2.5
	女性×80代以上	45	37.8	22.2	42.2	64.4	4.4

4.広域的な社会参加活動の現状・ニーズ (1) 他の区市町村の活動への参加状況

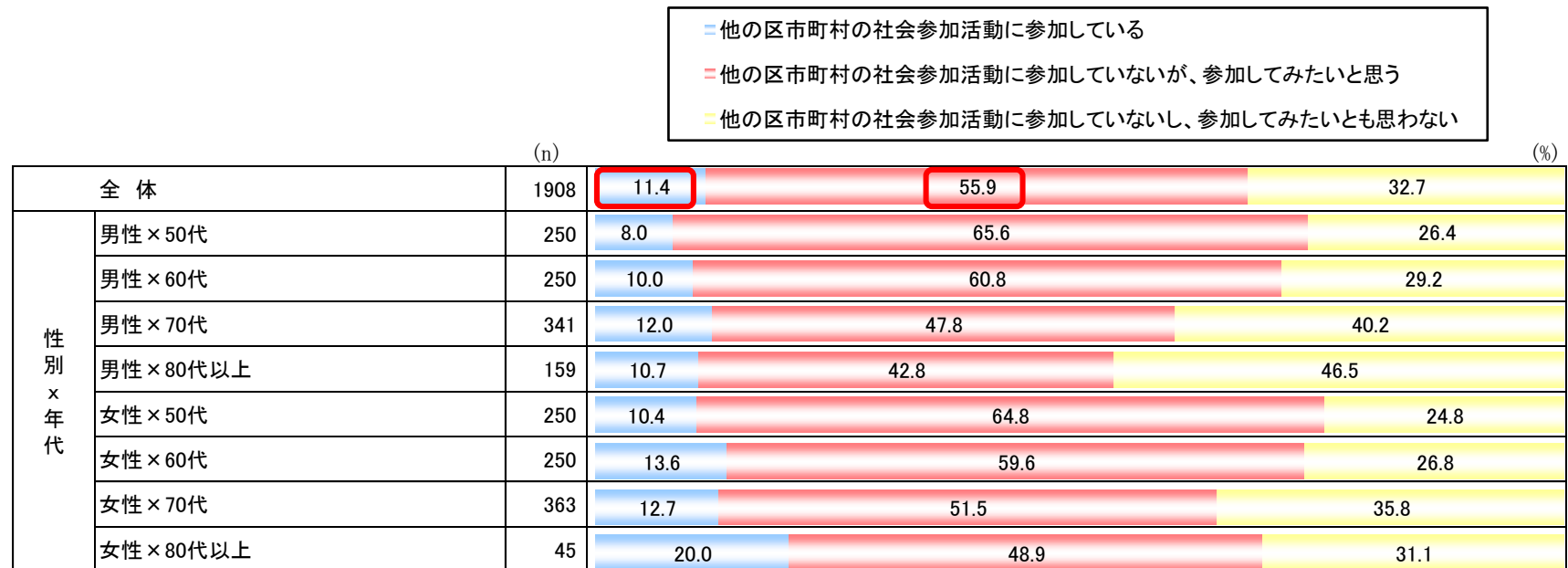
- 全体では、「他の区市町村の活動に参加している」が11.4%、「参加していないが、参加してみたいと思う」が55.9%であった。年代が上がるほど「参加していないが、参加してみたいと思う」の割合は特に男性において、やや低下する傾向がみられた。

4.広域的な社会参加活動の現状・ニーズ

(1) 他の区市町村の活動への参加状況

「オンラインプラットフォーム（ウェブサイト等）」に都内全域の様々な社会参加活動を一元的に集約することで、居住している区市町村以外の社会参加活動に関する情報収集、参加等がより一層促進されることが期待されます。現在居住している区市町村以外の社会参加活動への参加状況や参加意向としてあてはまるものを1つ選択してください。なお、ここでの「社会参加活動」は、就労、ボランティア、学び・趣味活動等を指します。（1つ選択）

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1908】



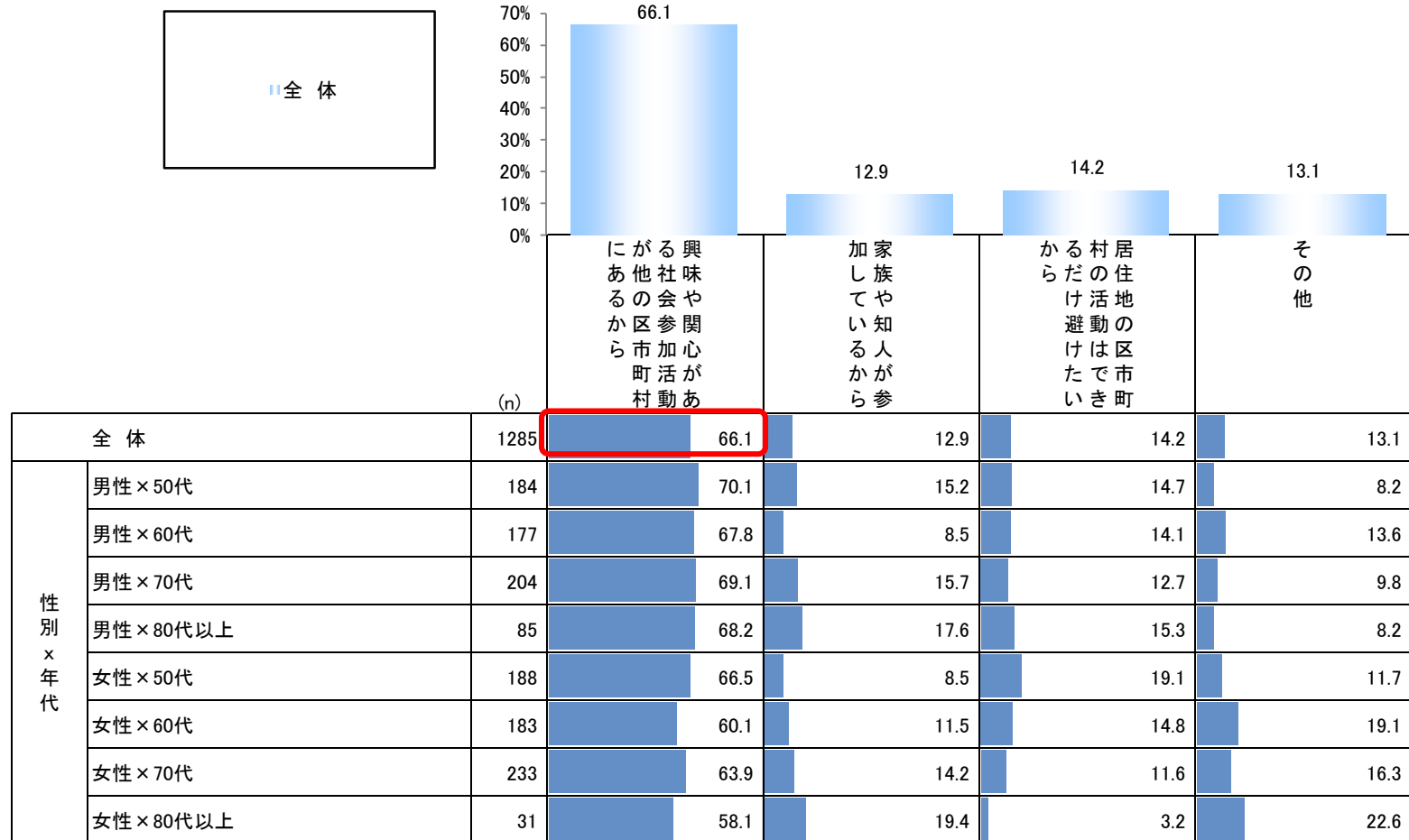
4.広域的な社会参加活動の現状・ニーズ (2) 他の区市町村の活動への参加理由

- 他の区市町村の活動への参加理由としては、全体、性別・年代別のいずれでも「興味や関心がある社会参加活動が他の区市町村にあるから」が最も割合が大きく、全体では66.1%であった。

4.広域的な社会参加活動の現状・ニーズ (2) 他の区市町村の活動への参加理由

現在居住している区市町村以外の社会参加活動に参加している又は、参加してみたいと思う理由として、あてはまるものを全て選択してください。(複数選択)

【単純集計、クロス集計(性別×年代)、n=1285】



4.広域的な社会参加活動の現状・ニーズ

(3) 他の区市町村の活動に参加するにあたっての課題・ハードル

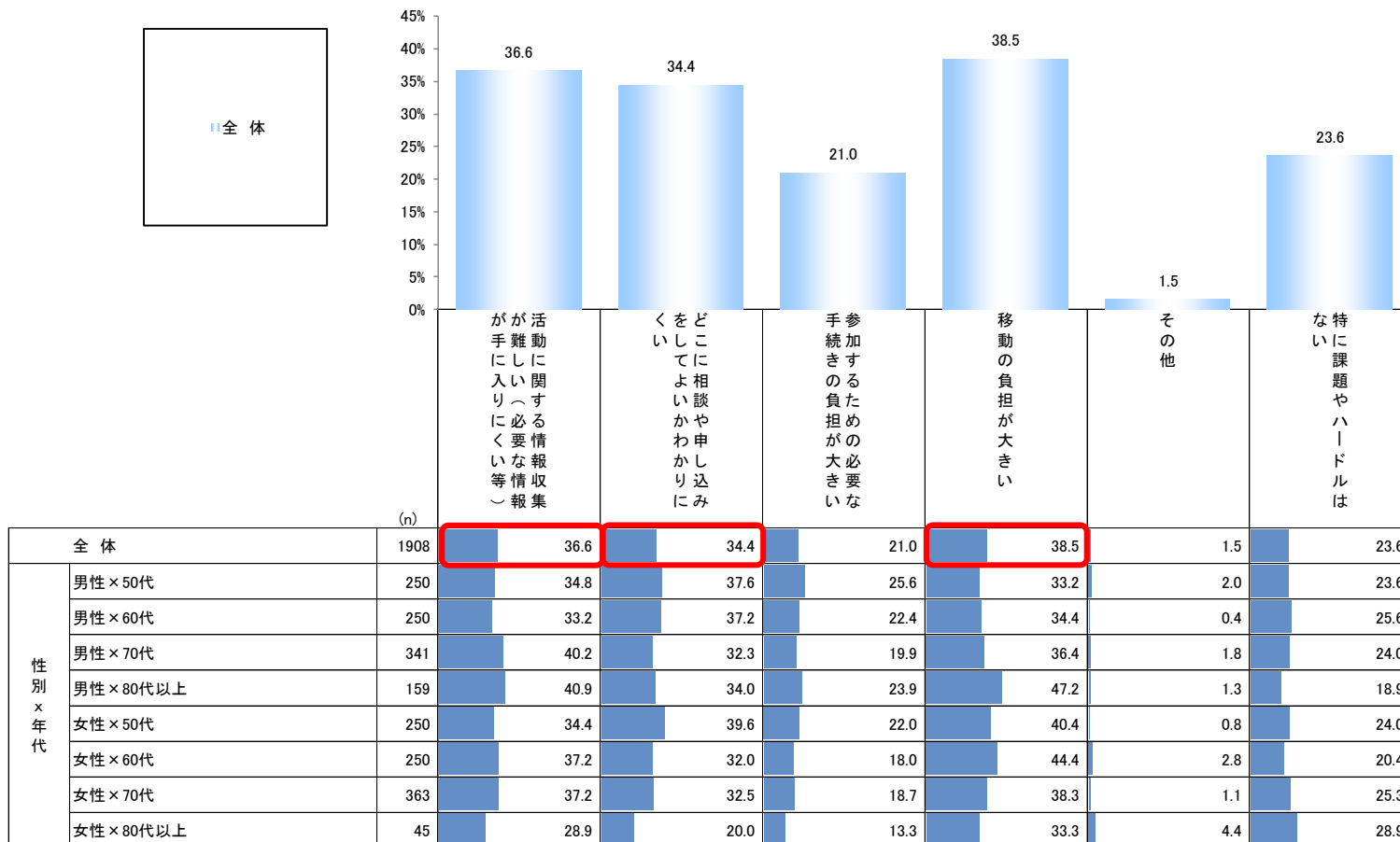
- 他の区市町村の活動に参加するにあたっての課題・ハードルとしては「移動の負担が大きい」が38.5%で最も割合が大きく、次いで「活動に関する情報収集が難しい」が36.6%、「どこに相談や申し込みをしてよいかわかりにくい」が34.4%であった。

4.広域的な社会参加活動の現状・ニーズ

(3) 他の区市町村の活動に参加するにあたっての課題・ハードル

現在居住している区市町村以外の社会参加活動に参加するにあたっての課題やハードルとして当てはまるものを全て選択してください。
(複数選択)

【単純集計、クロス集計（性別×年代）、n = 1908】



5.その他

(1) 高齢になっても社会参加活動を続ける際の課題

- ・ 高齢になっても社会参加活動を続ける際の課題として、以下のような意見があげられた。

5.その他

(1) 高齢になっても社会参加活動を続ける際の課題

高齢になっても社会参加活動を続けるためにはどのような課題がありますか。自分にあった活動の発見や、参加の後押しに関することなど、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。(自由記述)

主な自由記述回答 (抜粋)

- **健康維持の必要性**
 - ・ あらゆる活動の前提として健康であることが必要。
- **自由に・気軽に参加できる場や機会の必要性**
 - ・ 参加を強制しないで、自分の時間がある時のみ参加したい。
 - ・ オンラインを活用して、時間や場所に束縛されないで活動したい。
 - ・ 同じ活動に参加する人の属性や相性が重要。合わなければ容易に離脱できることも必要。
 - ・ 都合のいい時だけ参加できるのがいい。
- **一緒に参加する仲間づくりの必要性**
 - ・ 1人で参加するのは、不安。気の合う仲間たちと、行動したいと思う。
 - ・ 活動の参加を誘い合える仲間がいること。くじけそうになったときに支えてくれる人がいること。
- **知識や経験を活かせる場や機会の必要性**
 - ・ 今迄の経験や体験をいかせる活動は抵抗が少ない。
- **欲しい情報が見つけやすい仕組みの必要性**
 - ・ 体に負担が掛からない程度に、社会参加活動を続けたいが情報が見つけにくい。
 - ・ 情報検索や相談窓口の更なる充実化に取り組んで欲しい。
 - ・ 情報を得ることが難しく、簡単に情報を得ることができれば、幅がひろがる。
- **セキュリティ対策の必要性**
 - ・ 運営元の健全性を保証する公的な認可制度と個人情報の漏洩や盗用に対するセキュリティ対策が必要。

シニア・プレシニア向けアンケート調査結果 まとめ

＜社会参加活動の実施状況＞

- 社会参加活動（就労、ボランティア活動、学び・趣味活動）について、実施している割合よりも、実施したいと思っている割合が全般的に大きくなっており、意欲があるものの活動に至っていないケースが多く存在することが示唆された。

＜社会参加活動に関する相談、情報収集の状況＞

- 社会参加活動を行う際に区市町村窓口を利用している方は限定的であることが確認されたことから、窓口の拡充や利用促進に向けた周知等が必要と考えられる。
- 「役所や自治会の広報誌」が「インターネット」と並んでシニア・プレシニアの主要な情報収集経路となっていることから、「役所や自治会の広報誌」と連携した情報発信を行うことが利用拡大に向けては重要と考えられる。

＜オンラインプラットフォームの活用に関する認識＞

- オンラインプラットフォームの「利用したいと思う」割合は全体6割であった。また、プレシニアに限定すると「利用したいと思う」割合は約7割となっており、一定の利用ニーズが確認できた。
- 利用したいと思わない理由としては、「現状の仕組みでは特に困っていないから」、「登録手続きが面倒だから」といった理由が挙げられており、普及に向けては、オンラインプラットフォームならではの価値や利便性の訴求、登録手続きの簡易化などが重要であると考えられる。
- プラットフォームの機能としては、「活動情報の閲覧」、「活動情報の検索」、「活動への参加申し込み」のニーズが高く、これらの機能を優先的に実装することが必要と考えられる。

＜広域的な社会参加活動の現状・ニーズ＞

- 他の区市町村の活動に「参加している」又は「参加したいと思う」割合は約7割と高いニーズが存在することが示唆されており、都が中心となり広域的な仕組みを整備することの必要性があると考えられる。

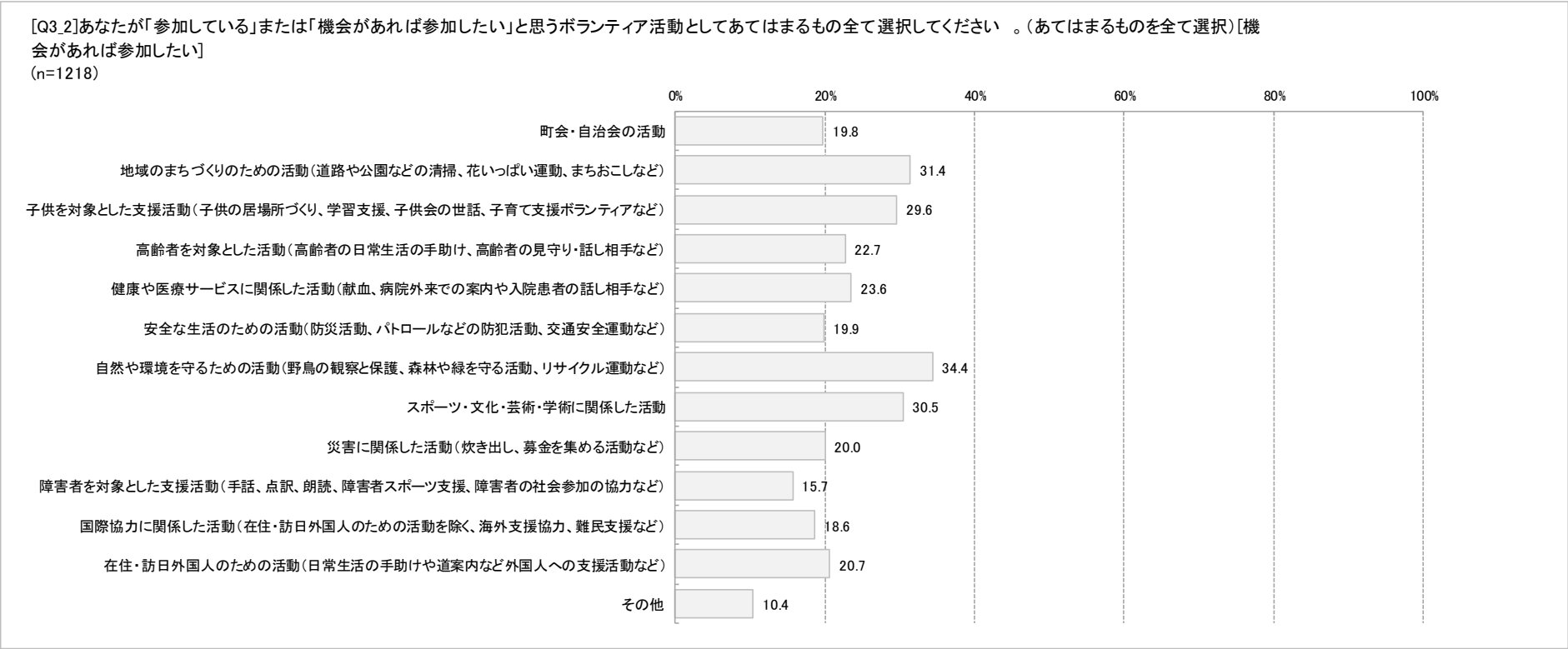
【参考】2020年度実態把握調査の概要（2021年1月実施）

- 東京都「将来の高齢者像と社会参加促進策に関する企画立案等業務委託」の一環として2021年に実施した実態把握調査の概要は以下のとおり。

高齢者の実態把握調査																													
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"> 東京都内に住む40歳以上の男女 																												
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> Webアンケート調査 																												
割り付け条件	<ul style="list-style-type: none"> 40代、50代、60代、70代の4区分についてそれぞれ約500サンプル、80代以上については最大500サンプルとして実査期間中に回収できた件数までとした40代、50代、60代、70代の4区分については男女比が均等になるようにした 																												
回収サンプル	<ul style="list-style-type: none"> 2,588件（右記のとおり） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>n</th> <th>男性</th> <th>女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>2,588</td> <td>54.1%</td> <td>45.9%</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>551</td> <td>49.7%</td> <td>50.3%</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>546</td> <td>50.2%</td> <td>49.8%</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>556</td> <td>50.0%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>70代</td> <td>565</td> <td>49.6%</td> <td>50.4%</td> </tr> <tr> <td>80代以上</td> <td>370</td> <td>79.2%</td> <td>20.8%</td> </tr> </tbody> </table>		n	男性	女性	全体	2,588	54.1%	45.9%	40代	551	49.7%	50.3%	50代	546	50.2%	49.8%	60代	556	50.0%	50.0%	70代	565	49.6%	50.4%	80代以上	370	79.2%	20.8%
	n	男性	女性																										
全体	2,588	54.1%	45.9%																										
40代	551	49.7%	50.3%																										
50代	546	50.2%	49.8%																										
60代	556	50.0%	50.0%																										
70代	565	49.6%	50.4%																										
80代以上	370	79.2%	20.8%																										
調査日程	<ul style="list-style-type: none"> 2021年1月15日～16日 																												
主な調査項目	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【基本情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別、年齢、世帯構成、身体の状態 暮らし向きの意識、ICT機器等の利用状況 居住地域、最寄りの鉄道駅又はバス停までの距離 外出頻度、外出手段、日々の居場所、外出していない理由 地域や人との交流状況、日常生活に関する情報源 <p>【就労の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労の有無、仕事をしている理由、仕事をしていない理由 今後の仕事の継続意向 今後仕事をする（または、仕事を継続する）ために必要な支援 <p>【ボランティアの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアへの参加状況・参加意向 ボランティアに参加するために必要な支援 </div> <div style="width: 45%;"> <p>【趣味活動の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域等で活動している団体や組織への参加状況 地域等で活動している団体や組織に参加するために必要な支援 <p>【都の取組等に関する認知・活用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政の取り組みに関する認知（認知・利用状況、効果認知） <p>【将来の生活の意向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢期の過ごし方の希望 社会参加するための移動に支障が出てきた場合に期待する支援 社会参加に向けて活用したいデジタル技術の内容 </div> </div>																												

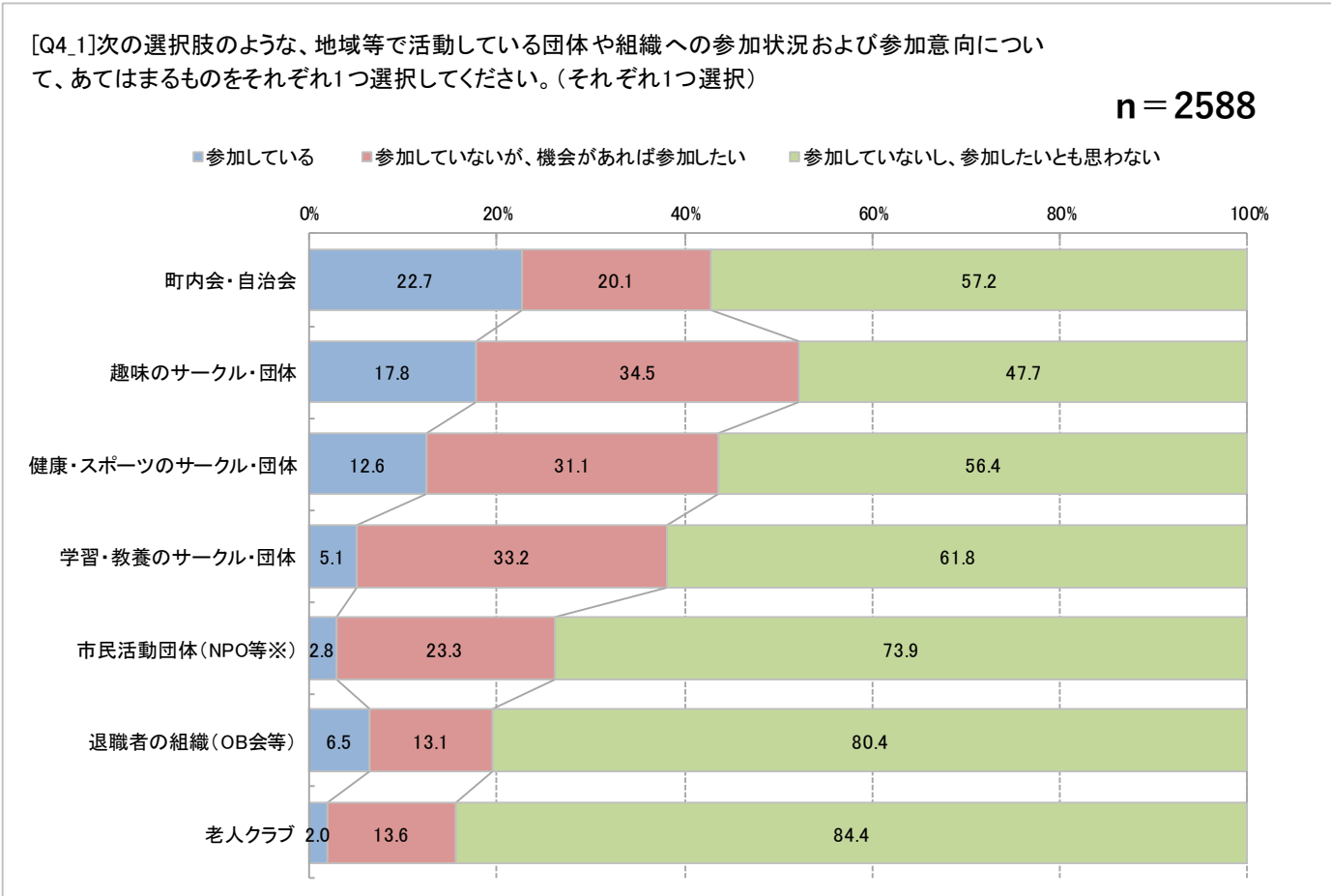
【参考】2020年度実施調査結果（抜粋）：参加してみたいボランティア活動

- 「機会があれば参加したい」ボランティア活動としては、「自然や環境を守るための活動」が34.4%で最も割合が大きく、次いで「地域まちづくりのための活動」が31.4%となっている。
 - ボランティア活動に「参加している」又は「機会があれば参加したい」と回答した1,218名を対象とした設問。



【参考】2020年度実施調査結果（抜粋）：地域等で活動している団体や組織への参加状況

- 「参加している」団体や組織としては「町内会・自治会」が22.7%で最も割合が大きい。「機会があれば参加したい」は「趣味のサークル・団体」34.5%、「学習・教養のサークル・団体」33.2%の順で割合が大きい。
 - 都内在住の40歳以上の男女2,588名を対象にWeb調査形式で実施。



事例：都道府県① 福岡県生涯現役チャレンジセンター

- 福岡県では、平成24年に70歳現役応援センターを設置し、高齢者の就労者社会参加を支援している。
- センターでは県内企業へ高齢者の雇用を働きかけるほか、専門相談員が就労やボランティアを希望する高齢者の個別支援を行っている。さらに、求職者に対して面接対策などのセミナーも実施。

サービス名 (施設名)	福岡県70歳現役応援センター ※福岡県内に4つの拠点を有する
設置者	福岡県
対象者	就業や社会参加を希望するおおむね60歳以上の高齢者 およびキャリアコンサルティングを希望する50歳代の方
対象とする社会 参加活動	就労、ボランティア
マッチングの内容	就労・ボランティアを希望する高齢者と、企業、NPO・ボ ランティア団体とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業を訪問し、高齢者雇用に関する働きかけや、高齢者向けの求人を開拓。 専門相談員が、就業やNPO・ボランティア活動などの社会参加を希望する高齢者と個別相談を行い、進路を提案。 対面での相談の他、オンラインでも相談を実施。 就職の仲介のほか、面接の指導や履歴書の書き方なども支援。 高齢者に、地域の子育て現場で活躍してもらうことを応援するため、「ふくおか子育てマイスター」認定のための研修会や手続きについて案内。



(出所) 福岡県生涯現役チャレンジセンターWebサイトを基に日本総研作成

(参考) 福岡県生涯現役チャレンジセンターの実績

令和2年度 センター利用実績等

■ 高齢者向け(60歳以上)のセンター独自求人開拓



※ 主な求人業種

- ・サービス業 (41%)
- ・医療・福祉 (30%)
- ・卸売・小売業(8%)

■ 70歳まで働ける企業の拡大

累計 649社

70歳まで働ける企業 (内訳)



■ 登録者・進路決定者数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	計
登録者数 (人)	1,380	1,834	2,542	2,574	2,597	2,820	2,554	2,252	1,631	20,184
進路決定者数 (人)	306	717	1,042	1,342	1,492	1,497	1,611	1,678	1,710	11,395

※進路決定(就職、社会参加等)



事例：都道府県② ちばボランティアナビ（略称:ちばボラナビ）

- ボランティアに興味・関心のある個人とボランティアを必要としている団体に対し、ボランティア活動のマッチングを行う場を提供することにより、自発的な社会貢献活動の促進と支え合いによる豊かな地域づくりの推進を目的としている。

サービス名	ちばボランティアナビ（略称:ちばボラナビ）
設置者	千葉県地域ボランティア事務局 （委託先：JTBコミュニケーションデザイン）
対象者	ボランティアに関心のある個人 ボランティアを募集したい団体
対象とする社会参加活動	ボランティア
マッチングの内容	ボランティアに関心のある個人と、ボランティアを募集したい団体とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 東京五輪を契機として機運が高まったボランティア活動の更なる普及促進のため、ボランティアを募集したい団体とボランティア活動に参加したい個人とをつなぐサイトを開設。 ボランティア参加希望者は、会員登録を行い、ボランティア募集情報を閲覧・検索および希望する活動への参加申し込みが可能。事前登録した興味・関心のある分野のボランティア募集情報をメールにて受け取ることもできる。 ボランティア募集団体については、事前に事務局の審査・承認を受け、要件を満たした場合に登録が可能。 登録後、ボランティア募集情報を掲載し、団体の活動分野に興味・関心のある個人会員向けにお知らせメールを自動配信することができる。申し込みがあった場合には、その希望者に本システムからメールを送り連絡を取ることが可能。



（出所）ちばボランティアナビWebサイトを基に日本総研作成

(参考) ちばボランティアナビ (略称:ちばボラナビ)

ちばボランティアナビとは

ボランティアをしたい人とボランティアを募集したい団体をつなぐマッチングサイトです。



(出所) ちばボランティアナビWebサイトを基に日本総研作成

事例：都道府県③ 埼玉共助スタイル

- 「地域や仲間、みんなで助け合う」=「共助」を促進するためのプラットフォーム。経験やスキルを活かしたい専門家ボランティア（高齢者を含む）と、地域の課題解決を目指すNPO等をマッチング。

サービス名	埼玉共助スタイル
事業者 (開発者)	埼玉県
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 専門スキルを活かしたボランティアを行いたい市民（高齢者を含む） 専門スキルを必要とするNPO法人等
対象とする社会参加活動	<ul style="list-style-type: none"> 有償/無償ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決を図ろうとするNPOなどに、経験やスキルを生かして社会貢献したい専門家ボランティアと、助成金、寄附、融資といった活動資金を紹介
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や趣味で培ったスキルや経験を生かし、NPO等の市民活動団体を支援したいと考える市民（高齢者を含む）が、「専門家ボランティア」として登録。 専門家ボランティアを必要とするNPO法人等は、登録者リストを検索することが可能。 NPO等の相談を受けて最も適した人材や資金等をマッチングするのは、「専門家ボランティア共助仕掛人」として登録している市民。これは、一定の登録要件を満たしたうえで、共助仕掛人として共助社会づくりに取り組む意欲のある人が登録しているもの。

"共助"(きょうじょ)とは、文字どおり、共に助け合うということです。よく、「自助」「共助」「公助」といわれます。

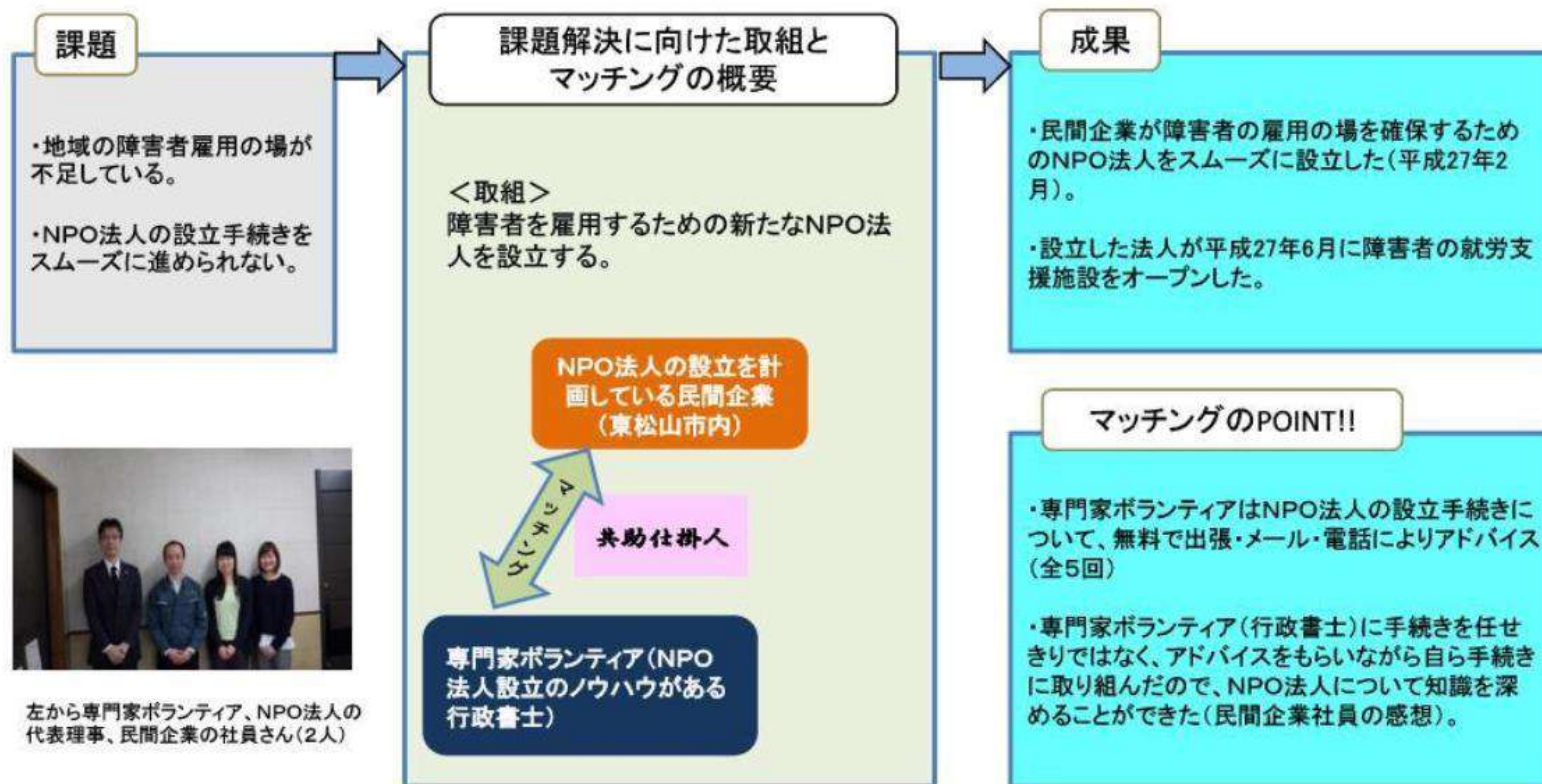


(出所) 埼玉共助スタイルWebサイトを基に日本総研作成

共助の取組マッチング事業（埼玉県） NO3

実施主体：NPO法人の設立を計画している民間企業（東松山市内）

～ 共助仕掛人が民間企業と専門家ボランティア（行政書士）をマッチング ～



事例：民間① GBER

- 東京大学にて開発されたGBERは高齢者に特化した就労マッチングサービス。近年自治体での導入が相次いでいる。

サービス名	GBER
事業者 (開発者)	一橋大学 ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター 檜山 敦 教授 (東京大学 先端科学技術研究センター 特任教授)
対象者	元気高齢者を主とした社会参加と就労を希望する高齢者
対象とする社会 参加活動	就労促進を指向して、ボランティア、生涯学習、趣味活動等を含む地域活動とのマッチングプラットフォームとして活用。
マッチングの内容	求人情報とシニアをマッチング 「モザイク型就労」と呼ばれる、数時間単位あるいは得意とするスキル単位でのマッチングを志向
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> GBERは「Gathering Brisk Elderly in the Region = 地域の元気なシニアを集める」の頭文字。 ICTが苦手な高齢者にとっても使いやすい工夫がされていることが特長。 就労希望者はアプリに名前、住所、取得資格や技能、得意なこと苦手なことなどを登録。求人する側は勤務場所と時間、活動内容や求める技能などを登録する。 就労希望者の入力内容、活動履歴、フィードバックのデータに基づき地域活動をソート。タスク分解された、短時間でできる仕事を想定している。 求人事業者にはGBERを通じて職業体験会、ボランティア、インターン等の募集ステップを踏んで仕事の募集へ進む活用を推奨する。

シニアの柔軟な働き方：モザイク型就労

時間モザイク

空間モザイク

スキルモザイク

自治体での導入事例

- ✓ 千葉県柏市 (2016年より一般社団法人セカンドライフファクトリーにて継続運用)
- ✓ 熊本県 (シルバー人材センターなどと連携)
- ✓ 東京都世田谷区 (2020年度末から導入。初めて会員を持つ団体ではなく、地域企業と一般シニアへの就業に絞って導入)
- ✓ 福井県 (2021年度末から導入開始)

(出所) 一橋大学檜山敦氏提供資料、各種公開情報を基に日本総研作成

(参考) GBER

GBER : Gathering Brisk Elderly in the Region (地域の元気シニアを集める)

シニア労働力の特性として個人で働くことにかかる制約を克服する、複数人の力を合わせて地域の困り事を解決する**モザイク型就労**と、個人目線で就労・社会参加の機会を拡大する**ウェブアプリ『GBER』**(PC/スマホ/タブレットのブラウザから利用できる)

様々な地域活動とのマッチング



GBER: 地域活動へのマッチングプラットフォーム

Schedule



地域参加できる予定管理

Location



生活圏内の地域活動を検索

Interest



興味関心を手軽に入力

想定する利用者

対象範囲
(扱う情報の質)

利用者の目的

生まれる関係

既存のマッチング
ツール

学生・転職希望者

アルバイト
(チェーン店舗：飲
食・小売・物流)
新卒・転職(企業)

お小遣い稼ぎ
就労

雇用主と労働者

GBER



シニア中心

(健常者～障がい者)

趣味、生涯学習、仕事、
ボランティア等
(地域を知り地域の困
りごとへの貢献)

一人ひとりの多様な目的に応じた
地域参加

地域との繋がり、インクルーシブ
なコミュニティの醸成

オンラインのシステムを活用することで、NPO・地域団体が必要とする
実行力ある「担い手」とのマッチングを最小限の労力・負荷で実現することをサポートします。

「GRANT」画面イメージ

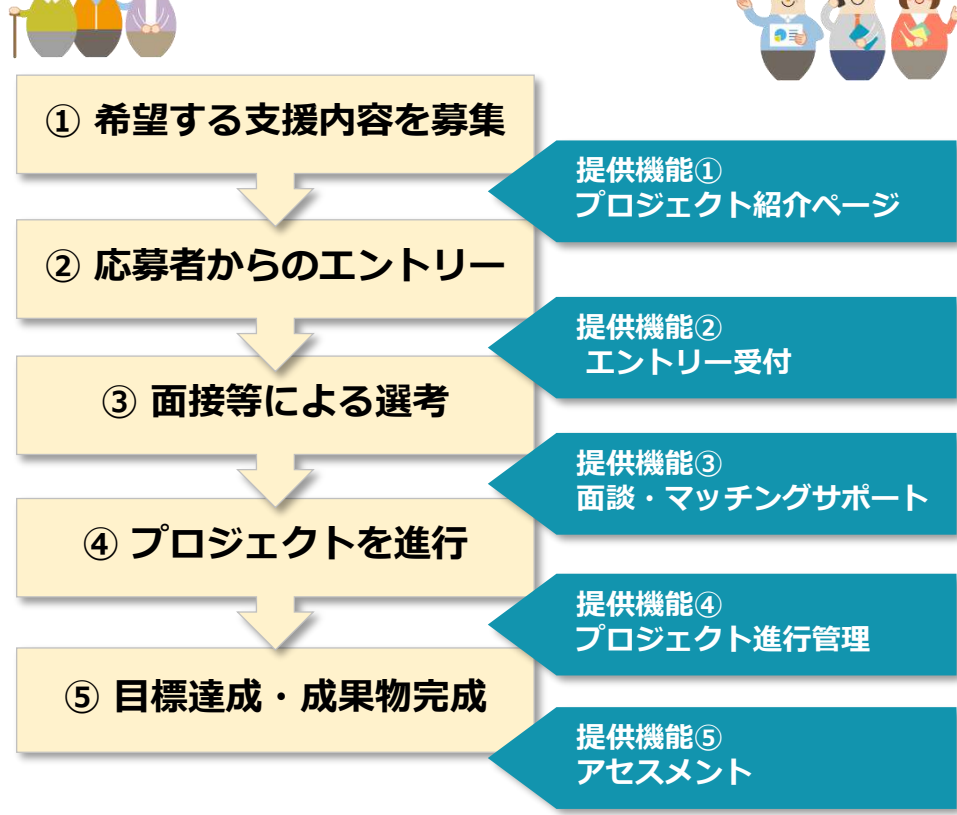


区市町村や日常生活圏域など任意の地域単位で担い手を募集するページを立ち上げられます。



新たな担い手を求める地域団体は、直感的な操作で「求人情報」のページを作成できます。

マッチングの流れと提供機能



※プロジェクトの目安は最短1日～最大3ヶ月間。
 システム利用にかかる費用は無期限で**無料**です
 全工程をオンラインで管理できます。

(参考) 社会参加プラットフォーム「GRANT」

<https://grant.community/>

サービス名	GRANT (Grant)
事業者 (開発者)	認定NPO法人サービスGrant (東京都)
対象者	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事の経験やスキルを活かしたいと考える社会人 • 組織や活動運営においてサポートを求めるNPO法人等
対象とする社会 参加活動	<ul style="list-style-type: none"> • 有償/無償ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> • 情報発信、事業計画、業務改善、ツール導入・活用、動画作成、アドバイス、講師 など
サービス概要 (2022/5/15時点)	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事や培ったスキルや経験を生かし、NPO等の市民活動団体を支援したいと考える主に企業人900名が登録 • NPOや地域団体など、課題解決の実行や運営の担い手として支援を必要とする246団体が登録し、いつでも情報掲載、プロボノの募集をすることができる • 東京、大阪を中心に、中間支援団体や社会福祉協議会など36のコーディネーター団体の登録があり、それぞれの条件に合わせたプロボノのマッチングを実現 • プロジェクト情報、応募者の管理、面接設定やプロジェクト進行まで全てオンライン上のシステムにより管理が可能 • 企業の社会貢献活動の促進として、会社や組織単位のマッチング実績の確認も可能 • これまでの成立は160件 (完了125件、進行中35件)
実施エリア 実施テーマ	<ul style="list-style-type: none"> • 東京都 品川区、中野区、豊島区、八王子市、三鷹市、府中市、町田市 • 神奈川県 横浜市、横須賀市 • 大阪府 池田市、守口市、寝屋川市、四條畷市、此花区 • 三重県 四日市市 / 滋賀県 甲賀市 / 千葉県 松戸市 • 子ども食堂 / 災害支援 etc

ウェブサイト制作・改修



プロボノワーカー オンライン

既存のウェブサイトの改修

しばさき彩ステーション

📍 調布市

📍 WEBディレクション・情報アーキテクト

事業計画・資金調達



満席 有償

スマホ講師

NPO・えん

📍 江東区

📍 ICT活用・講師

他 YouTubeチャンネル立上げ、オンライン会議、Excel活用、営業支援、インタビュー記事作成、翻訳 など

チラシ制作



プロボノワーカー オンライン

団体の案内チラシ作成

けめカフェ

📍 品川区

📍 チラシ作成

講師・先生



プロボノワーカー オンライン

クラウドファンディングの実際を知りたい

なかの生涯学習サポーターの会

📍

📍 ファンドレイジング

(出所) NPO法人サービスGrant岡本祥公子氏提供資料

事例：民間③ シニア向けボランティアコーディネートサイト「YELL」

- ボランティアの力が必要な人や施設と、ボランティアをしたい人や団体がつながる機会を提供し、支え合いの絆を深めることを目指す。主にシニア向けボランティア活動を提供している。

サービス名	シニア向けボランティアコーディネートサイト「YELL」
事業者 (開発者)	社会福祉法人奉優会
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 特段の制限や要件はなく、誰でも参加可
対象とする社会 参加活動	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアへの参加を希望する高齢者と、こうした活動を提供する企業、NPO・ボランティア団体等とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人が展開するマッチングサイトであり、自法人事業所における活動の他、その他の団体での活動のマッチングも行う。都内を中心に、周辺自治体のエリアもカバー。 活動パターンとしては、高齢者・障害者・児童施設での活動のほか、公園や道路清掃、防犯・防災、被災地での活動、伝統文化伝承等。 活動内容によっては有償のケースもある。



自分のペースで利用できるから
空いた時間を有効活用できる

活動施設の情報が
わかるから安心して応募できる

個人の名前など公開されない
から安心して応募できる

サポート体制がしっかり
しているから安心して活動できる

(出所)「YELL」webサイトを基に日本総研作成